

6558 15

日本酒業協会誌

緑丘

1967 No. 6
42年度最終号

続外人講師特集号



梅
近藤悠三

小樽商
同窓会

SINCE 1876



結論が出ました— 「★サッポロビールは 最初のうまさが続く」

●雑味・雑臭がないから うまさが続く

ビールの味の総仕上げは濾過の工程が受けもちます。サッポロビールは独自の方法で雑味・雑臭を完全に除去、味の純度がずば抜けて高いのです。
何杯飲んでも最初のうまさが続く——サッポロビールだけの秘訣です。

緑丘

全 国 版

(通巻)No. 60号
(42年度 6号)

(「緑丘」編集部)

兵庫県西宮市清水町1の16

藤 目 英 三 内

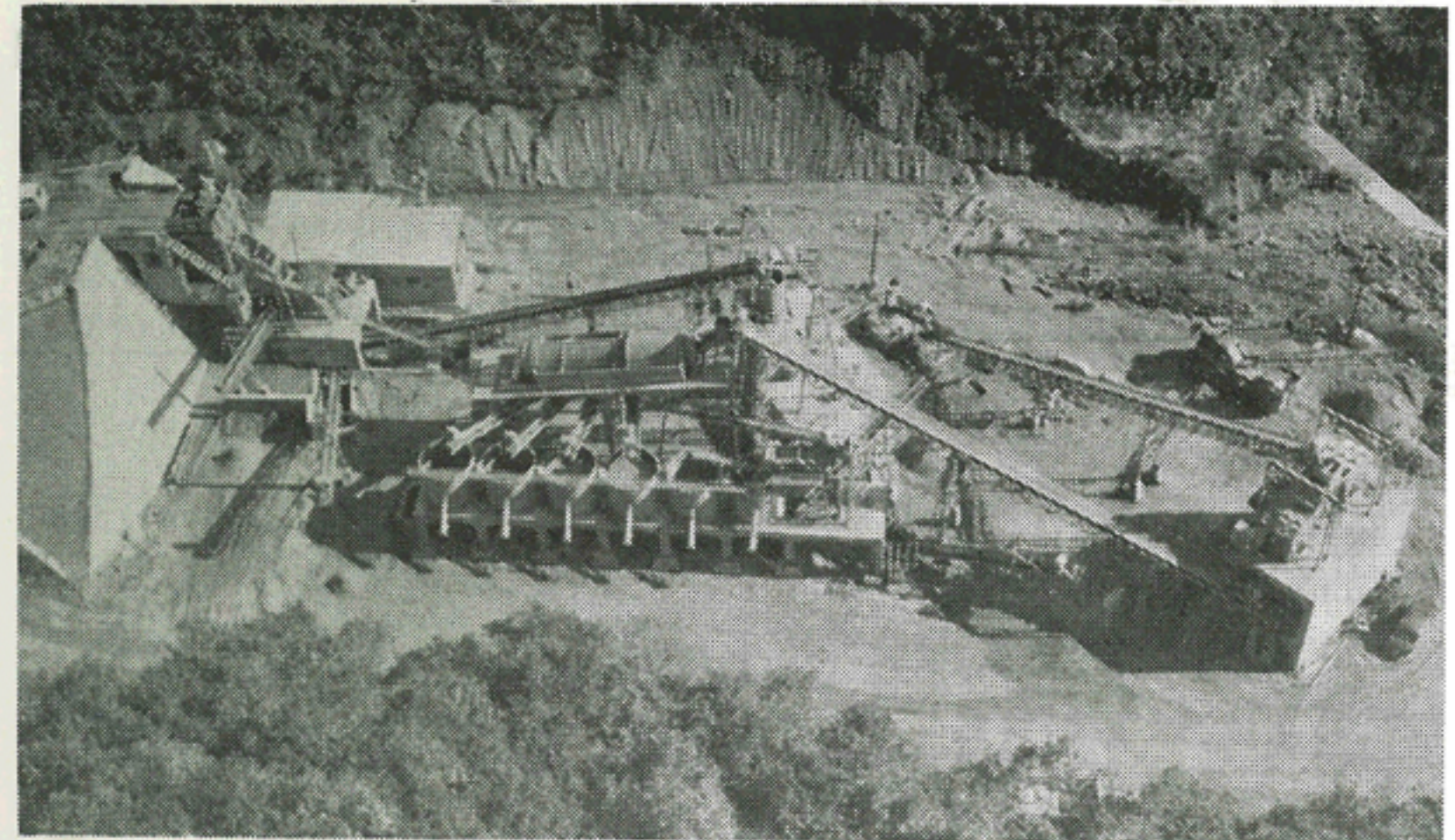
(緑丘会大阪支部)

大阪市北区梅田八番地

新阪急ビル8階

サッポロビール(株)内

国土総合開発に貢献する



KYCフ Lent

- 一営業品目一
- 砕石プラント
 - アスファルトプラント
 - パッチャースケール
 - 砂利撰別プラント
 - クラッシャー
 - ベルトコンベアー
 - パッチャープラント
 - コンクリートミキサー

KYC光洋 機械工業株式会社

代表取締役社長 奥村正美(昭17卒業)

本社 大阪市北区南同心町1丁目31番地 電話大阪(358)3521(大代表)

- 大阪支店 電話大阪(358)3521(大代表)
- 東京支店 電話東京(254)5601~5
- 名古屋支店 電話名古屋(221)7037~8
- 広島支店 電話広島(61)5101~3
- 高松支店 電話高松(61)4391~3
- 福岡支店 電話福岡(43)6461~4
- 鹿児島支店 電話鹿児島(2)3055・1650
- 仙台支店 電話仙台(25)4441~3
- 高松営業所 電話高松(61)4391~3
- 鹿児島営業所 電話鹿児島(2)3055・1650

緑丘戦歿者慰霊碑 建立募金あと一息

デザイナーの目途もつく

募金は同封振込用紙(青)で

二月二日、札幌では緑丘戦歿者慰霊碑建立実行小委員会を開催した。

振込用紙で

緑丘戦歿者慰霊碑建立募金に速かなる応募を望む

佐々木緑丘会理事長を委員長として戦歿者慰霊碑建立の募金が始まった。

参加する事に意義がある。募金の性格上強要すべきものではなく、たとえ若干円でも式千円でも、この言葉は緑丘人の叫ぶ尊い言葉である。

式千円一口は一応の目標であるが振って多数口の応募を望む。この「緑丘」に同封した振込用紙をご使用下さい。この用紙によって年次と支部単位の合計が出て来ます。

(碑建設関係)

松尾教授より東京で開催された打合会の状況報告(緑丘四九号報告)に続いて、その後建築デザイナー竹山実氏より松尾教授に対し費用を問題外視して協力し度い旨の申入れあり、一月下旬来道して学校を訪問、学長・中島事務局長と面談し、雨の緑丘の候補地二ヶ所を見て、夫々に構想を練る。建立場所にふさわしい碑のデザイン、設計案を数件作成する事を約して帰京。目下鋭意碑の設計構想をすすめているようであるが融雪後再度来道して現場を確認後、デザイン設計案をすすめる予定である。竹山実氏は昭一八卒竹山涼一氏の実弟であり別掲の経歴者である。この碑をすすめるに当って委員の苦勞の点は①幾ら資金として集まるか②その集まった資金で満足するかどうか③そのデザインが出来るか④その資金でどんな優秀なデザイナーが引

受けてくれるか、である。集まる資金と碑にかける予算の行末を何時もにらんでいなければならぬ。集っただけの浄財でやればいゝではないかとも考えられるが、その集まって来る資金のスピードにもよるものである。終戦記念日である八月十五日に除幕するとすれば、もうそろそろ目途をつけねばならない。即ち資金の決論を急ぐのである。(募金状況)

左記の通りの募金状況である。

本部受付	1,441,960	(3/15現在)
東京受付	433,500	(2/29現在)
札幌受付	97,000	(3/15現在)
小計	1,972,460	
(ほかに)		
S16前後	17,18,19	
	1,850,000	(3/15現在)
合計	3,822,460	

募金には縦(支部単位)と横(同

期単位)の募金体制をすすめていて昭一六、昭一六後期、昭一九、も夫々五〇万を目標に募金が開始され、さらにこの三期卒業生で二〇〇万円は集まるであろうとの事である。
東京支部・募金のための集会
東京支部は慰霊碑建設のための募金について銀座の東京支部事務所にて集まっている。
去る二月には十四日・二十七日の二回にわたって会合をもっている。
△二十七日出席者▽
昭三武岡嘉一、昭五北村太治郎、昭五越前谷順治、昭五森松定男(札幌)昭六古沢精吉、昭八八木勇平、昭一〇林健三、昭一三三川裕一郎
各年次の同期への呼びかけについて各年次からの報告があり、その進行状況によって東京支部としての行動に移るのであるが未だ支部単位のリストが出来ておらず、その明細について札幌、小樽に連絡をとる。東京支部委員の募金状況を把握しその上で東京支部が次の行動を起こすこととし、その事務は東京支部事務局が行うものとして解散した。

竹山 実氏 経歴

昭和9年 札幌市に生れる。
昭和31年3月 早稲田大学理工学部建築科卒業、卒業設計に対して村野賞を受け、同大学院を卒業、修士号授与。
昭和33年4月~34年8月 武基雄教授研究室勤務、長崎水族館、雲仙温泉、湖南海岸園等に関する制作あり。
昭和34年9月~35年6月 ハーバート大学大学院建築科卒業
昭和35年6月~37年8月 ボストン、ヒデラ、ササキ事務所ほかの事務所勤務、ボストン大学計画ほか多数の制作に参加。
昭和38年 デンマーク家具コンクール展受賞。ベルリン自由大学国際競技設計2等受賞。
昭和38年9月~39年6月 デンマークローヤルアカデミー建築学校講師
昭和39年7月 帰国現職下記の助教授、早稲田大学、北海道大学、日本観光協会専門委員。
昭和40年3月 竹山実建築総合研究所開設、ソニービル3.4.5階マミーナ設計、神戸マミーナ店設計、水戸市市営共同墓地計画、水戸市自然公園計画、西伊豆松崎サンリゾート計画等環境デザイン関係制作数多くあり。

実行小委員会へお願い
△目標達成のために▽

実行小委員会は速かに年次別・支部別一覽表を作成し、すでに集まった金額の内訳を関係支部に流し、支部長に確認せしめ、およびその目標額との差額を縮めることについて協力依頼すべきである。
△戦死者氏名確認▽
支部単位に戦死者氏名を確認する方法は不可能であり、年次別に、そ

の責任者を明らかにすべきである。速かに年次別責任者を示され度い。

年次別募金目標

- 昭一六一九(各期五〇万円) 計二五〇万円
 - 昭一一一五(各期三〇万円) 計一五〇万円
 - 昭二一一〇(各期二〇万円) 計一八〇万円
- 大正年次(各期一〇万円)

旧刊紹介

茶 味

菅野祐治 (大一一)

奥田正造著「茶味」が長女の本箱の底から出て来た。四十年前緑丘と一緒に集立った友に会った様な気がする。という訳は？
金商奉職中或る日、図書室で献本の国語の教科書を拾い読みしている内、すばらしい一文に接した。出処は奥田正造著「茶味」とあるだけ、発行所も定価も分らぬ。其の時ふと「林藤さん」に話してみたらと思つた。林藤さんは宇都宮書店の一番番頭、「本の神様」の様な人である。折よく註文取りに来校された林藤さんに話してみると「承知しました。何とかありません」と例の如く気さくな返事。一月も経つたであろうか「先生此の本でしょう」と大正九年発行、定価一円の和とじの本を見せられた。

そこへ伴校長がロータリークラブの一員として来遊された。さあ困つた。どうしよう。小松町の富岡先輩だつたら、これ幸と早速山中か山代に案内するだろうが、そんな資力は勿論ない。一晩考えた末、森八の長生殿に添えて本書を贈つた。ところが伴さん、すっかり感心して小樽から同行した野口さんに見せた。野口さんが感心して流石は金持、小樽に帰り着くなり左文字を通して此の本二百冊取寄せ、同好者に配つた。ところが誰も大喜び、野口さんに心からお礼をいって来たので、今度は野口さんがあらためて伴さんにお礼をいって来られた。「君のおかげで大変目を施した」と伴さんからわざわざお礼状を頂いた。小樽の越崎兄、砺波の神沢君あたりにお見せしたら大変喜ばれると思うが、長女がいたずら書きして余り本が汚れているので一寸人様にお見せするのに気がひける。然し内容は全くすばらしい。稀有の好著と思うので、敢えて貴重な誌上をおさき願つた次第である。

外人講師特集

新制大学と外人講師

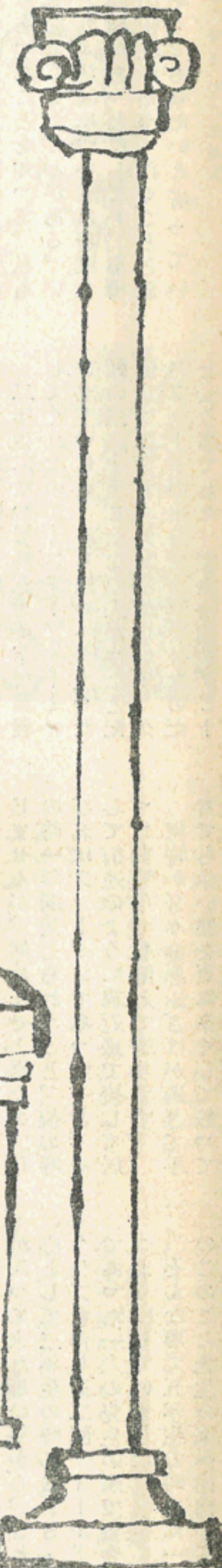
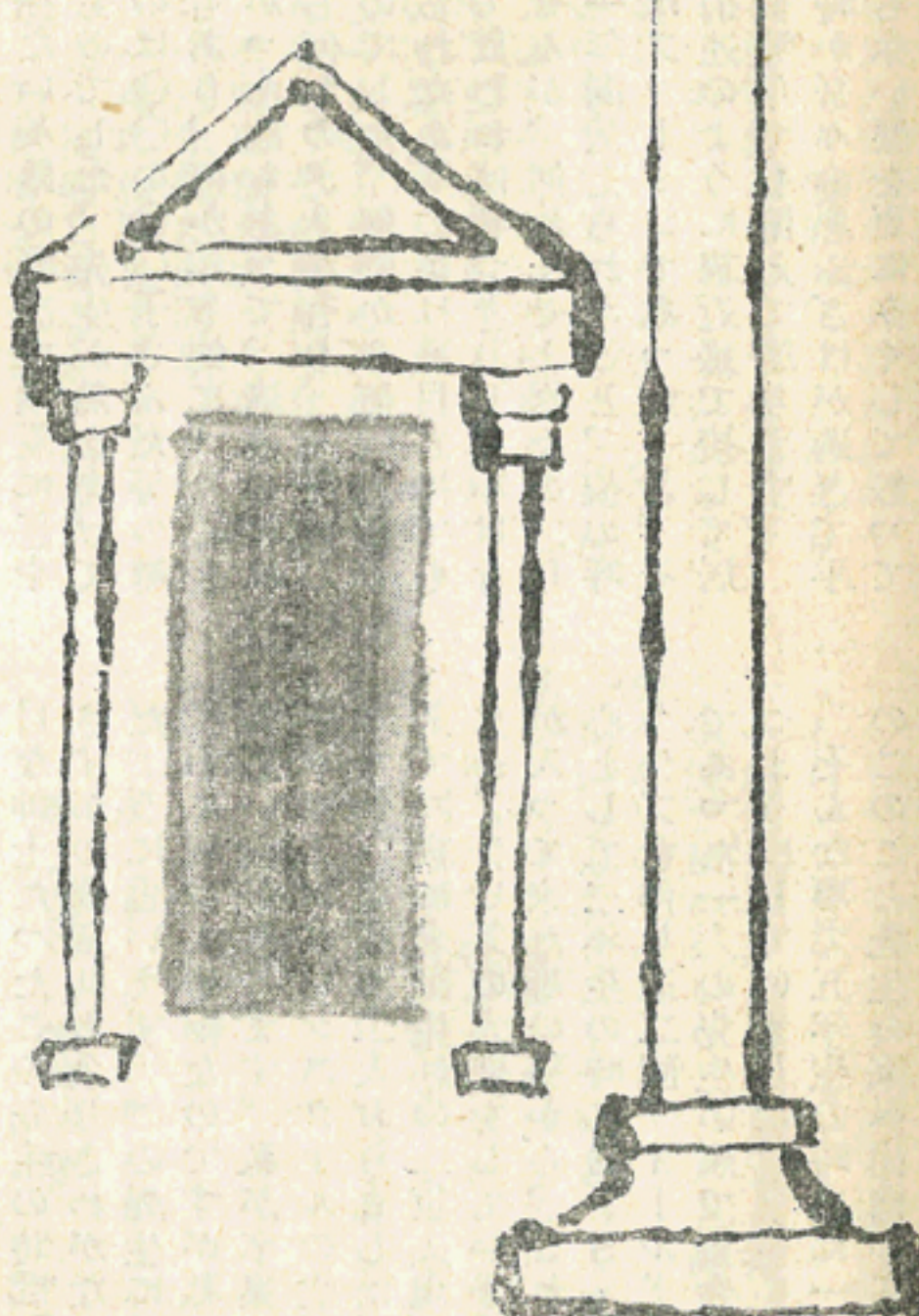
加茂 儀一 (二代学長)

前号の「外人教師」特集を読ましていただいで感じたことは、戦前の外人講師は外人自身だけでなく、学生との関係においても小樽は恵まれていたと思われることである。一つは立派な外人というよりも人間味のある外人講師が、しかも学校にすみつかれていたことであつたのではないかと思う。この前のマッキンノン先生の来日の同窓生の歓迎ぶりについてもあれだけみんなが心から先生の顔を見て喜んでいた様子を察しただけでも当時の外人講師と生徒との間の関係がどんなに親密なものであつたかがわかるような気がする。

それにくらべると戦後の外人講師と生徒との間の関係は決して昔ほどのことではなかつたように思う。それは外人講師の人間や学生の良否の問題ではなくて、戦前と変つた世の中のせいであろう。ことに戦前では語学教育で有名で、夫に各国語について専任の外人がおられたのに比較して、戦後は新制大学の制約で外人講師は専任としては一人しか来てもらえないという事情があつた。それ以外の外人はすべて非常勤の外人で教える時間しか生徒との間に接触がないという有様で、一人だけの専任では生徒に与える外人教師の影響は

殆んどなかつたといつてもよい。それだけ現在の生徒が在学中に外人教師に対する心の通いは少いのではないかと思う。
もう一つは戦後の外人教師は大部分日本のことを研究するためにやつて来て、そのかわり外国語を教えるという場合が多かつたため長い間学校にあつて、その間に外人教師が学校の人となり切ることができず、大抵は二、三年で学校をやめてしまつたのである。その上に昔は専任の外人講師は立派な官舎があつたが、われ生徒はいつも先生の家を訪れたり、学校の庭で時間を惜しまず話しあう機会もあつたのに、今では外人教師は長い間落ちつくこともないために立派な官舎が与えられない事情もある。いづれにしても現在の状態では制度の上からいっても外人教師の存

在は余程生徒の方で積極的にならない限り、生徒とのつながりはうすくなる。
一方また戦前は外国語の授業に与えられる時間も多かつたのに反して、現在の新制のもとでは外国語の授業のためにきめられていた時間数は少い。それだけに外人教師に接する機会も少く、先生も生徒にとけ込む余裕もないわけである。それによつて今の生徒は先生の家を訪ねることを好まない。外人の教師の家を訪ねて外国語を学ぼうとする意欲が旺盛ではない。今の大学制度では生徒が自分で語学を勉強する気持をもたない限り、語学の上達はまづ無理である。ことに第二外国語の習得となる時間は少ないから、普通にやつていては猶さら駄目である。おそらく現在の第二外国語では先生がどんな



に一生懸命に教えても先生が真面目に採点すれば及第点をとる生徒の数はおそろしく少ないのではないかと思う。

卒業試験で語学が落第点のために卒業出来ない生徒もいるくらいである。

これは何も小樽商大だけに限った問題ではなくて、全国の大学に共通している問題であり、それだけに大学としては語学に特色をもたず意図である以上余程工夫をこらさなくてはならない。その点小樽商大は他の大学よりも努力している方であるが、問題は生徒の方にある。しかしそれも小樽の生徒は一生懸命にやっつて、その点の欠陥を自分で埋めようと努力している様子はうかがえると思うが、その努力の足りない生徒はやはり問題であろう。

いつか外人の学者が札幌の大学と小樽の大学とで講演をしたが、札幌の大学では日本語のラポラトリがあり、通訳をつけたのに対して、私は小樽には当然、生徒は通訳なしでも講演がわかるはずだからという理由で、生のまま講演してもらったが、通訳をつけた札幌の大学では講演のあとで質問する生徒がなかったのに小樽の大学では生のままで話をした外人講演者に英語で質問をした学生がかなりあったことを知って、私も大いに気をよくしたことがある。いろいろと外人講師については新制大学では問題があったにしても、小樽ではこの伝統が残って行くことと思ふし、そうでありたいと祈っている。

F. E. ファミンジャー先生

F. J. ダニエルズ先生

小池輝男 (S.11)

前号の緑丘を見て吾々の年代の者が名前を知って居るのはマッキンノン氏、スミルニッキー氏の二人丈しかないので心細く、なぜ他の先生の事も載せないのだと編集氏に談じ込んだ事から、ではお前が書けと云う事になり、拙文を綴る羽目になった次第です。

吾々が一年生の時はマッキンノン氏に教えて頂いたのですが、同氏に關しては前々号のマッキンノン特集で大方語り尽くされて居ると思ふので、これは除きます。

二年生になって簿記を英語で講義してくれたのがミスターファミンジャーでした。赫ら顔のハゲ上った頭の三〇才そこそこの人だったと記憶して居ます。英国のたしかオックスフォードの出身で海軍少佐なのだ云う事でした。学生時代ラグビーの選手だったとの事で実に堂々たる



ミスター ファミンジャー

体の持主で、何時も着て居る背広がピッチリと張切つて居るような感じでした。歯切れのいい、舌の発音で credit side, debt side と図示しながら、いわゆる帳簿の記入の仕方を教えられました。

この先生は独身で確か北海ホテルに居を構えて居た筈です。そして毎晩 drink によっていゆる、旅の憂さをはらして居られたようで当時旅舎の周辺のカフェエでしばしば悪童共と鉢合せ等の事が有つたようです。そんな時の翌日の講義は何のかの拙ない英語の野次で大変にぎやかなものでした。先生が熱をあげて居るのは〇〇の〇〇子さんだ等の噂さ等もあり、何か年令的に大きな差がなかった故もあって、講義の時は何時も何かのタネが有り、一笑いしたものでした。何時から何時迄学校に居られたか等の事は蓋目君にでも調べて貰わねば判つきりした事は存じませんが、何れにせよ吾々の二年の時一年間教えられたこと、彼の呼び名はファミンジャーであったこと。そして前述のように親近感で接して居つた事等今でも憶えて居ります。

何時か吾々の悪ふざけが過ぎて平素でも赤い顔を更に赤くして怒っておられた時の顔等今でも憶ひ出しはじめてです。それまで教えておられたスイス人のデーゴンさんやおやめになつて苦米地先生に頼まれて……幼稚園のつもりでやつて下さい、つてわけで、その十月からでした。最初はフルエましたよ(笑) 満々員の学生なんです。もつとも皆フランス語をやるわけじゃなかったけど(笑) 松尾正路先生ともそれ以来の長い友達。

戦後(一九四五年ごろ)は北大でも講座をもち、その教え子は数千人のぼり、全国に散らばっている。

今から十三年前だが同期の角谷、墓目らと一緒に松尾先生とマチルドさんを奈良へ案内したことがあるが車の中で「今日はついてるネ」とマチルドさんがいうと「マダムはお寺など見ても判らんだろう」と口の悪い角谷がいう。マダムはすかさず「マリアアキレタ」すると横から松尾先生が「マダムは古陶が判るんだぞ」と助太刀した事があった。そして話はフランスの焼物の事に及んで日本へ持ち返った(戦後一度だけ帰国) 陶器の破れたのをつないでもらった話などに話題が飛んだ事などを

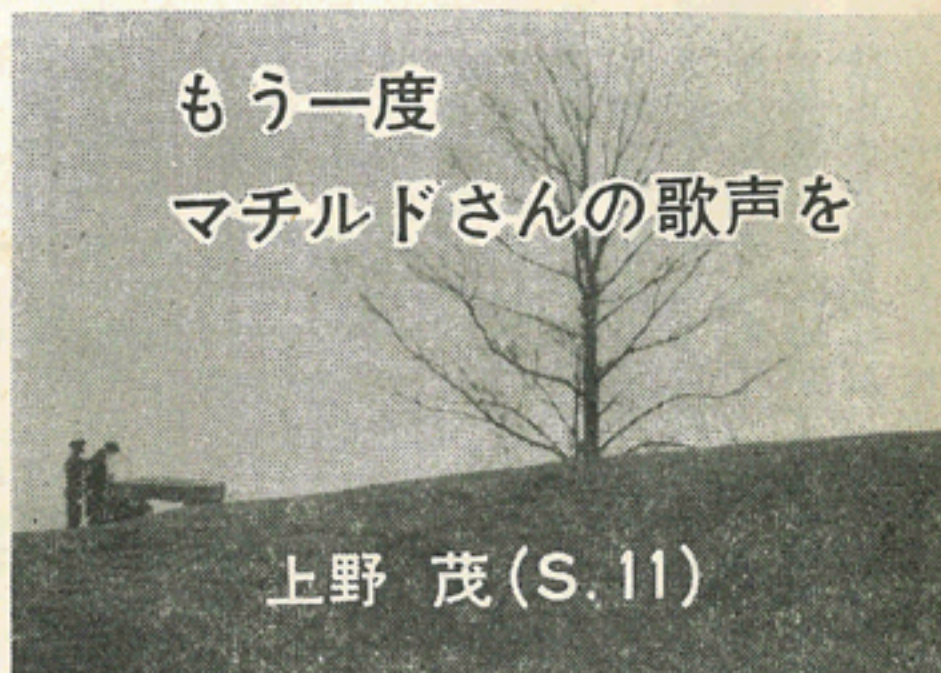


ミスター ダニエルズ

で出来るようになって居ました(今ではとても駄目ですが)。小樽の卒業を目前にした最後のこの山羊先生の時間に、今日はもう授業はしない。君達の力がどの位ついたか、これから私がお話をするから、その大意を英語で書け」との事でした。

(これは他の四クラス共そうだったようです) 話の内容が何で有ったかはもう記憶に有りませんが教室の中を一人々々のノートをのぞきながら、歩いて居た先生が私のノートのぞき込んで「オー君の書いたのが今迄見た中で一番よく出来て居る」と云つてくれた時の嬉しかった事、未だに忘れません。それと大東亜戦争の始まる少し前、丸ビルの前で先生を見かけ、ご挨拶をした事が有ります。その時の話の内容も全く憶えて居りませんが物資もだんだん不足して来て居た開戦前では有り、何か年寄った疲れたような格好の先生に胸が痛かった事を憶ひ出します。

今どうしておられるか之もまた知り得ませんが、もう大分のお年の筈のお元気で有ればよいがと希つて居ります。



もう一度 マチルドさんの歌声を

上野 茂 (S.11)

マチルドさんは一九二二年(大正十一年)五月に日本へ来たのだからもう四十六年になる。だから「生粋の札幌っ子だ」という。

マチルドさんは「十九の春」花のバリエで日本からの医学生、太黒薫さん(当時三十才)とめぐり合つた。それからマルセイユから船で四十五日もかゝつて日本へ到着したのは神戸であった。そして親や親戚を迎えられて汽車に乗って糸崎へ行きそこから小さい舟に乗って瀬戸田に着いた。はじめて見る外国人に目を見張つて町中が歓迎してくれる。やはり今でもカスリの着物を着た子供などの事が印象に残っているようだ。

マチルドさんが教壇生活をはじめた頃の思い出を北方文芸創刊号の座談会で語っている。

「一九三一年(昭六)小樽高商が



マチルドさん(左) 若草山

思ひ出す。

そして、その折も京都や奈良で、「こわい」とか「はんかくさい」という北海道弁が出ていたようだ。もう教室で聞いたジャンソンも聞く機会がないのだろうか。

思ひ出の歌をテープにとつて大阪緑丘会へ残して貰えないものか。

札幌へ今度住みついたらという松尾先生にこの願いがかなえてもらえたらと思うのはわたし一人ではなさそうだ。

外人講師特集号予告

外人講師特集号はさらにこの号に続いて次号も外人講師特集号(Ⅲ)を発刊します。

大谷敏治元母校教授は、大正中期から外人講師にまつわるエピソードを昭和年代にわたつて当時の教授や学生々活を織り込んでの長編を執筆中で御座います。(すでに編集部にて四〇〇字詰三〇枚到着)

当時の学生気質面目躍如として紙面に溢れ出ております。先生は筆が走つて『緑丘外史』の観があると申されていますが、どうぞ次号の外人講師特集号をご期待下さい。

尚執筆ご希望の方は、四月二十日までに編集部へ原稿をお届け下さい。

さりとして、あとがきの解説文などを適当にもちつてまにあわせに抄訳するの嫌だったから、正直に降参を宣言した。

その代りに、日本の東北地方が生んだ異色の天才詩人の童話を一編、名訳して、先生に献上奉るといったような苦しまぎれの前置を書き、そのころ僕が愛していた、宮沢賢治の童話の珠玉作、「貝の火」をこれまた、辞書と首つびぎで格闘しながらなんとかまとめて提出した次第。ホモイという名の小兎の物語で、動物たちと鳥たちの交流を幻想的につづった作品だったが、賢治独特の表現法や、擬音がたくさん入っている。数日すぎて、寮でごろごろしている、例の宿題の件で先生が、ミスターオガタという学生をさがしておったというニュースを寮の真面目な友人が、心配そうに伝えてくれた。

内心しまったと思いつながら学内の先生の研究室におそるおそる訪ねて自己紹介におよぶと、先生は例の人なつこい目で破顔一笑、ついで、ロレンスの論文のことなどには一言も触れず、「大変興味深い個性的な、作家を紹介してくれてとてもありがたう。楽しく読んだよ」というような意味のことをいい、「是非賢治の他の作品もたくさん読みたいから紹介してくれるよう」熱心にいわれたので僕は大きに恐縮してしまった。

とくに、釣鐘草が風が吹かれてなる擬音、僕がそのままローマ字で綴った、「カンカン、カンカエコ、カ

ンコカンコカン」を佳いリズムだとも度か口ずさみながら閑なときいつでも遊びにきてくれるよう誘われた。

そんな訳でそれから、最上町の外人官舎に、先生をときどき訪問したり、また先生のほうでも授業の帰り僕のねぐらたる古びすぎたいささか化物屋敷めいた、オンボロの寮室に気軽によられ、宮沢賢治の作品を中心に、東北弁もふんだんに入る日英ちゃんぽんの愉快な会話が誕生していった。

先生は、アクセントにくせを残しながらも日本語は僕の英語などよりは、よほど巧みに話されたし、異郷の風土に努力して帰化しようなどという、無理な姿勢でなくごく自然に日本の風土になじまれていた。

お酒はあんまり強いほうでなかったと記憶するが、気軽にやきとり屋ののれんをくぐつては、大いに健啖ぶりを発揮されコップ酒を手に、愉快そうに、いろんな話題を氾濫させていた。

師匠について、尺八を習っておるとのこと、ある日その精進のほどを披露してくれたが、その音色については、いかに馬耳をもってなる僕の耳にもいささか迷惑至極の音のようであった。

それでもきちんと端座され瞑目して懸命に吹奏されている先生の手前苦笑を押えて拍手をおくらねばならぬ破目だった。その後の上達の程はいかなるものだろう。

緑丘の異人さん達 ①

大谷 敏 治

(大10)

「緑丘外人講師」諸先生については、緑丘前号に、同窓諸兄がつぶさに書かれた。本稿はその追補、ときどき脱線するのは、緑丘第五九号の中野清一教授のよびかけにこたえて、緑丘外史の一部ともなればとの筆者の願いからである。

大正七年(一九一八年)四月、小樽高等商業学校第八回生として、受験生九〇四名のなかから、入学を許可されて、丘を登った一五八名の若人にとって、緑丘学園は、驚きでいっぱいであった。

雪融けの道路のぬかるみ、向う側へわたるに、わたした板きれを危く踏んで登った地獄坂の頂きにあるグリーン校舎の立派さ——これは当時札幌一中とよばれたポロ校舎の中学からはいった私の眼には、とくに壮麗にみえた。

入学式の時の、校長渡辺龍聖先生の金ピカ大礼服のおごそかなこと、その髭が、首席教授伴房次郎(法律学)・教務主任坂本陶一教授(商業学)はじめ、教授中村和之雄(英語)・井浦仙太郎(商業学)、国松豊(簿記・会計学)、武田英一(商業学)長谷川慶三郎(英語)、小原亀太郎(商品学)といった諸先生の堂々たる髭と、美を競っている。菅安右衛門大尉(体育)は、もちろん八の字

髭をびんとはねていたし、助教石橋哲爾(中国語)、田中乙(ロシア語)、西尾広(習字)の諸先生も、立派な髭をたくわえていた、この頃はまた教授のしんがりにおられた苦米地英俊先生(商業、英語)も、頭の後部は別として、鼻下には漆黒の髭をつけていた。髭のない先生方はたとえば、木村善太郎教授(倫理・哲学・ドイツ語)は若くして光頭、ピカさんのあだ名を甘受されたし、八木又三教授(英語)は、短軀童顔ながら、太った体に、よく合ったフロック・コートに、シルク・ハット美々しく、壇に立たれたし、アパラスんこと寺田貞次教授(経済地理)は、米国はアパラチヤン山脈を越えた背後地(ヒンターランド)を説いて口唇に泡し、そして、大西猪之介教授(経済学)は、いつも、和服に袴の姿で、ステッキを携えていた。兼任教授三浦新七博士(経済史)は美しい髭に、いつもシガーを、くゆらしていたし、講師高岡熊雄博士に

介された。ふとラフカデオ・ハインの伝記を連想しハインの娶ったような純日本式のつまし、クラシックな感じの娘さんを勝手に想定していたのであるが、小樽市のさる商家のお嬢さんであるユキコさんは、僕のお空想を軽く裏ぎって、ぐっとアメリカンスタイルのモダンに華やいとお嬢さんで淡路恵子のようなエキゾチズムもただよわせていた。

しばらくして、彼女との間に、森蘭ちゃん、信長のお小姓にあやかった、しゃれた名前の坊やが誕生され先生は、ますます日本の生活様式に密着されながら、学生生活を続けられておったが、残念にも、僕の四年の初めか、コロンビヤ大学院で更に日本文学の造詣を深められるべく、緑丘を後にされた。

記念にそのころ僕が熱中し始めていた、油絵を一点差上げたが、強く辞退したにかかわらず、絵具代にといつて、いくばくかの代金をおいてゆかれた細かい心遣いをもなつかしく憶いだされる。

その後の先生の消息については、後に緑丘を去られて、東京で御活躍中の英文学の速川先生や、アメリカで、ゾル先生としばらく近くで暮らされていた、志村正雄先生などに、されざれに、お噂をきくのみだが、先生は、コロンビヤ大学院では二年間のうち最短期に博士号をとられて、学内にも勇名をはせ、その後ブオード財団のスカラシップで、東大の文学部に再遊学され、滝沢馬琴の翻訳と研究に一層の拍車をかけ、その間日本文学研究の権威、ドナルド・キーン氏との交遊を通じて、その

いたっては、ドイツ皇帝ウイールヘルム二世・カイゼル張りの美髯のうえに、巨大な双つの耳の孔から、ふさふさした毛が垂れて、講義で口をもぐもぐされると、その毛が揺れてそよいだ。要するに、どの先生も、外観、内容ともに、堂々たる教授であった。

それもその筈、当時、高等商業学校は、全国に五つ、高等学校も、一高から七高造士館まで全国に七つ、北海道大学は、たしかこの年に、東北大学農学部から分れて北海道大学となり、医学部のための予科生が、募集されたのは、翌年であった。こうした稀少価値の小樽高商に、「誰も引き受け手のない学校なら、やってみてもよい」と、岡田良平文部大臣に大見得をきった初代校長、

WATANABE THE GREAT が、「他所で名をなした人々を招聘したことはない、大学卒業のホヤホヤでそれも首席銀時計という俊秀か、学界的伏龍鳳雛といった若手を集めたのである」から、諸先生の自からたのむところ、おのずから外に現はれたのであろう。

その内容にいたっては、新入生には、評価のしようもない、ただ驚きの毎時間であった。苦さんには、あの商業英語通信軌範の暗誦でおどろかされるし、八木先生は、MARK Twainの短篇小説の講読で、一時間の授業に、わずか七、八行しか進まないが、その説明には、当時最新の英文法書の説明で、「このところN・E・D・(オクスフォード大辞典、英語のことばの辞書の大元) 第何巻、なににの項を見よ」とい

実力を高く評価され帰国後にも、カンスス大学、バンクーバー大学等で熱心に講義と研究活動を進められておるとのこと。馬琴全集の完訳という、大事業にも、一歩づつふみこまれておる由、とまれ、生来の強靱な体力と、豊かな精神力に恵まれたタフガイ・ゾルヴロット先生のこと故、ドナルド・キーン氏を凌ぐ、優れた、日本文学研究者、翻訳家として、独自の地位を築かれ、僕等の眼前に颯爽と登場される日もあまり遠くはないことと、はるかに御健闘を祈る次第である。

ゾルさん、がんばれ!

振込用紙の使用について

「緑丘」誌代振込みについては末尾の用紙をご使用下されば手数料は加入者負担で無料となります。この場合の印刷インクが赤でなければいかぬという注意を受けましたので前号の用紙をご使用にならず、必らず今月号の用紙を御使用下さいませようお願いいたします。

「緑丘」購読について
緑丘大阪支部幹事長 若山 永太郎

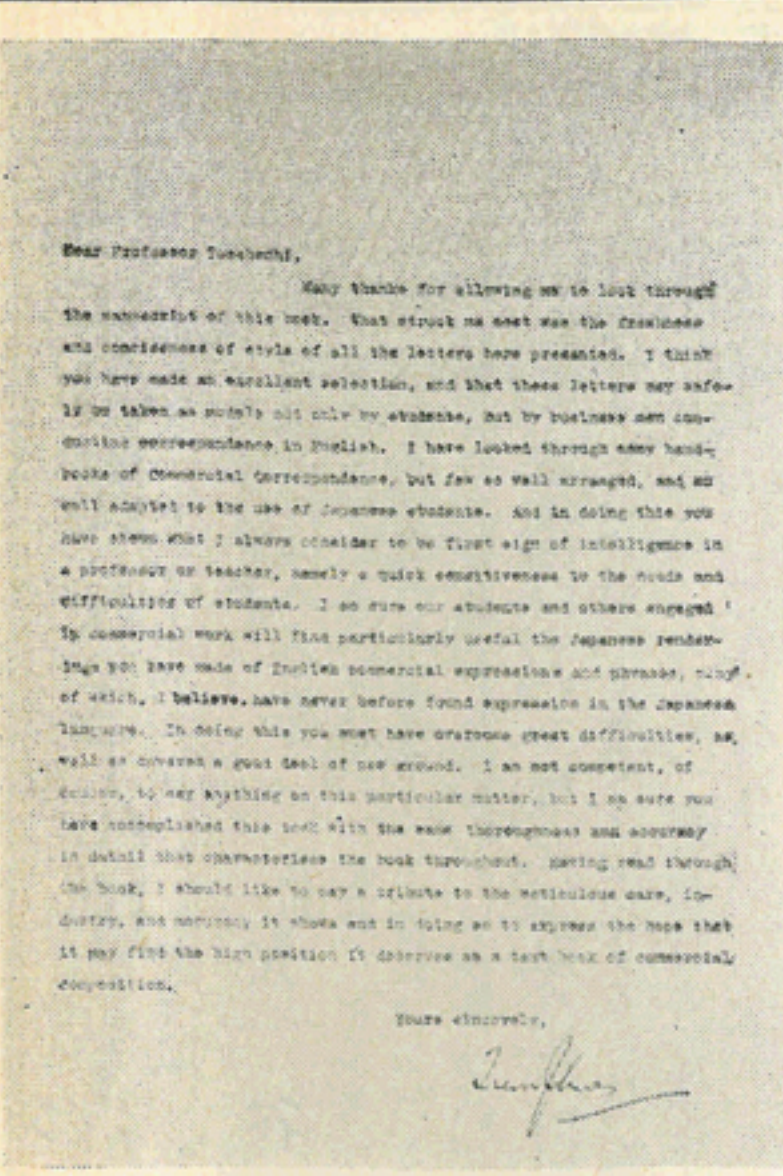
昭和十二年、昭和十三年の同期生は期せずして、この「緑丘」を機関誌としようとして決めた、つとめて同期生のニュースを流がすように努力しているようである。

この号は二千五百部を印刷して各年次に送られるそうであるが緑丘会各支部も「緑丘」購読にご協力をお願いいたします。とともに若い年次の方も機関誌として一括購読を編集部に代ってお願いいたします。

しかし、なによりの驚きは——もうひとつの驚異、図書館の蔵書と、寮のストームも、いれて——この学園の授業に、外国人の授業の多いことであった。なにしろ、当時、開校後満七年、創成期のごたごたもようやくおさまり、新任、同時に留学、という先生がたも帰朝教壇に立たれて、学校の内容もようやく整ったといえ、在籍の学生四〇〇名、教授定員十七人、助教七人(昭和七年七月十八日改正)というなかに、いや正確にいうと、これは後にわかったことであったが、この邦人教官のほかに、じつに四人の異人さん、外人の先生がたがおられたのである。いまのように、日本の津々浦々、どこへいってもアメリカさんに出会う、といった時勢ではない。英語を教え、英語で授業をする先生は、お藤元の東京帝国大学にだって、文学部英文科には、たぶんローレンス先生おひとり、外国語を教えることを専門とする東京外国語学校にも、専任はメドレー先生だけ、全国高商の本家にもあたる東京高商(当時はまだ四年制の高商、ただし専攻部があった)にだって、専攻科をいれても、

おそらく、ブロックホイス先生ほか一、二というところであつたらう。ところがである、登つた丘のこの学園で、四人もの、とつ国の先生方にしぼられようとは！まことに驚きの最大のものであつた。

まず第一に、トレバー・ジョーンズ先生。あれは、なんの時間か、時間表に、英語とあつたか経済とあつたか、もう記憶にない。ある日、ある時、中肉中背のあから顔、縮れ毛の外人が、教室に姿を現わした。いきなり「The Industrial Revolution」という、それが題であつた、つづけて、なにやら、低い声でぼそぼそという、often というのがオフトンときこえる、上衣とズボンが違ふ、どうもズボンは無地であつたらしい、ゆかのうえを右に左に歩きながら、口述する、ときどき片脚を学生の机の座椅子のうえにかけて、口述する、十九世紀初頭の、イギリス産業革命の、英国の経済、生活、政治、文化、思想に及ぼした影響、世界の歴史にもつ意義を説くらしい。



ARNOLD TOYNBEE という名もきいた、Chartist Movement などという項目もあつた。この人が Trevor Jones 先生、苦米地英俊著 Standard Commercial English and Correspondence の序文に、名をあげて、その Proof reading と多くの助言に、謝辞の述べられたイギリス人であつた。この人は、イギリスの紳士のたしなみで、いつもパイプを口にくわえ、アツシユのステッキを携さえ、そして、shooting をやられる。苦さんがひどい神経衰弱になやんだ時代に、狩猟を手ほどきした人である。大正四年五月、備外国人教師として来任し、大正十一年一月解職、東京高等商業学校に転じ、のちに、東京帝国大学に、経済学部が設けられると、これにも出講して、その英国人らしい風手と、ものごし、学殖とで名をはせた。東京では、ながく大森の山王ホテルに住み、緑丘人で、大森駅でみかけたという方が尤も多いか。いつ母国に引きあげられたか、知らない。夫人 E. ジョーンズさんも大正七年九月から翌八年三月まで、授業をもたれた。お子さんは、なかつたらしい。夫妻は、図書館のすぐ下の樹立ちに包まれた山荘風の家、のちにその先きに丸井、今井の店員寄宿舎ができた——に住んでおられた

が、後年、筆者が、しばらく、この家に住んだのも思い出である。無口で、そつけない外人先生であつたが、学生に、なにかを教えた、イギリスの紳士であつた。(次号に続く)

異動

栄転

- 小林正雄(昭八) 朝NHK美術センター監査役(日本放送協会)
東京都千代田区内幸町二一一一八新日本ビル内
磯西将治(昭一八) 雪印乳業朝名古屋支店長(乳品営業部乳製品課長)
佐藤忠雄(昭一六後) 雪印乳業朝大阪事業部市乳販売部長(大阪事業部販売部長)
三野六郎(昭一一) 住生住宅株式会社代表取締役
大阪東区大川町二七住友生命淀屋橋ビル七階
秋山朔雄(大一一) 所沢・長島・大野法律事務所事務局長
東京都港区赤坂四丁目九虎屋ビル

退官・退任

- 山本安次郎(昭一一) 京都大学経済学部(経営学原理)桜庭康次(昭七) 日魯漁業株式会社取締役

住所変更

- 大谷敏治(大一一〇) 東京都目黒区駒場三丁目十二番一三二号(表示変更)
内藤好生(昭一一) 大阪府豊中市服部本町五丁目二一三〇一
菅井長平(昭八) 仙台市長町緑ヶ丘二一六
三沢秀雄(大一一) 東京都港区赤坂六四一一一赤坂マンション
古関周蔵(大一一三) 東京都目黒区三田二一一二一一(表示変更)
苦米地英彦(昭一五) 神戸須磨区村雨町四一―村雨住宅
木田正一(昭九) 横浜市金沢区町屋町二一六
藤井菊子(故藤井武夫先生未亡人) 京都府乙訓郡長岡町うぐいす台一二五―二藤井祥一郎方
糸魚川きくえ(故糸魚川祐三郎先生未亡人) 池田市天神一丁目六一三
平安マンション内
村木真三(昭一六後) 尼ヶ崎市常吉字阪草一番地一七
秋山朔雄(大一一) 東京都目黒区五本木一丁目一六ノ四

事務所移転

- 香川清夫(大一一三) 大阪市南区塩町通一丁目四四浪速ビル二階電話四五三二〇

没後35周年記念、全作品の全貌を正確につたえる決定版!

全巻予約読者募集中! お近くの書店にお申し込み下さい。

プロレタリア文学の金字塔!

定本 小林多喜二全集 全十五巻

小林多喜二全集編纂委員会編

小B6判/布表紙/美装箱入/¥四二〇

今年一九六八年は、小林多喜二が東京築地警察署で虐殺されてからちょうど三五年になります。新日本出版社では、長期にわたる準備の末これを記念して定本「小林多喜二全集」(全15巻)を刊行することになりました。本全集は小林多喜二の小説、評論、日記、書簡など、その全業績を網羅し、従来ながらく絶版となつていた全集を全面的に改訂すると同時に、その後あたらしく発見された原稿をも加えてあらたに編集しなおし、全作品の全貌を正確につたえる決定版として責任をもっておすすめできるものです。

全15巻・目次

- 第1巻 健・継母のこと・殺人・ロクの恋話 など
第2巻 残されるもの・最後のもの など
第3巻 防雪林・一九二八年三月十五日 など(既刊)
第4巻 蟹工船・不在地主(既刊)
第5巻 暴風警報・オルグ など(三月下旬発行)
第6巻 壁にはられた写真・独房・テカミ など
第7巻 失業官車・転形期の人々
第8巻 沼尻村・党生活者・地区の人々
第9巻 評論
第10巻 評論・習作文集
第11巻 日記、翻訳
第12巻 書簡
第13巻 小林多喜二研究

新日本出版社 東京都千代田区富士見2の13の14



営業科目

Table listing various electrical services and equipment such as refrigerators, air conditioning, and power tools.

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野雅司(大正15年)

本社 大阪市北区曾根崎新地2の50 TEL(361)8871~9
神戸出張所 神戸市兵庫区西上橋通り1の1 TEL(56)5306

読者の声

「緑丘意外史」の刊行を望む

中野先生提案をぜひ具体化

北条 恒一 (昭一五)

緑丘五十年史が見事に刊行された。これは正史である。あの裏には私達の学生生活に、思いもかけない珍談綺談があった筈である。また、それ自体、歴史的にいろいろの変遷があったと思う。

私だけのノスタルジヤではないと思うが、二度と繰り返すことのできないあの生活の断面を記録し、後世に残すことは意義のあることではないかと思う。たとえば、××先生が木に登ってシヨンペンをしたら、下にいる××先生にひつつかか、たとか、スミルニツキの猿だか犬に石をぶつけてひどくおこられたとか、生々とした話題や、ほんとかウソかわからない伝説が沢山ころがっている。

今更そんな憶い出にふけつたつてしようがないじやないかという異見もある。しかし歴史というものはそういうものじやない。私たちの過去の遺蹟が現在の若い人たちに何かを語りかけてくれる筈である。たとえば打算を超越したほんとうの情熱のほとばしりだとか……
こういう話を年代を追って集録してみると、緑丘五十年史の裏打ちができるのではないか。また、こういう読物はあまり刊行されていないから、伊藤整氏など立派な緑丘出身学者が編集して、市販したならば相当売れるのではなからうか。「同期の桜」の逆手である。同窓各位の賛同を得て、一発ぶちかましたいとかねがね考えていた。

「緑丘意外史」とよき執筆
私には「明治・大正・昭和世相史」を読んでいて時次のような論文が私の目をとらえた。
「常識で考えるかぎり」、「正史」と「神史」は相補的な性質のものだ。文字によるエリートの歴史、文字によることのない常民の歴史、このふたつがあまりに離れなければ、社会の全体像はわからない。「神史」は「正史」とならんで歴史研究の重要な領域である。というべきだろう。

「正史」家はいわば、植木屋の職人のごときものであつて、あちこちにハサミをいれて、格好のよい庭木や生垣をつくりあげる習慣がついているのだ。「正史」家のえがき出す「歴史」には秩序があり、その秩序



木村殿

にたいして、「正史」家は確信をもっている。これに反して「神史」は因果律にも法則性にもべつだん興味をもたない。「神史」の前提になっているのはおよそ人間的現象の世界はバラバラで、いつどこでどんなことが起きるかさっぱり見当がつかない。という認識だ。
中野清一教授の提案は「緑丘五十年史」という「正史」に「神史」があることによつてさらに七十年史を企画する時に役立つばかりでなく、単に「小樽商大史」のみならず、緑丘以外の人々たちにも興味をもつて迎えられるだろうとの提案理由であつた。
私の知っている限りでは凌霜外史(神戸大学)、早稲田外史がある。しかし昨年出版された凌霜外史はその編集は誠にお粗末なものであるに反し、早稲田外史は木村殿の筆になるもので「母校の上に異った照明をあて」ている。「校史は大学の関係者以外にはめつたに読まれない。しかし外史なら、あるいは福沢論吉を慶応以外の人が、またあるいは沢沢栄一伝を竜門社以外の人が、さらにあるいは三井三菱の書物を、その社員以外の人が広く読むと同じように早稲田大学の学生、卒業生以外に天下に向つて一読を要求してもおかしくないと思うのである」としているが、さすがによき執筆者を得てこの外史はいきいきとしている。
私はこの「緑丘外史」が緑丘の誇る伊藤整氏にお願いしてまとめていただくことを強く念願するものである。

「緑丘外史」の提案に寄せて
森川 正明 (昭一二)

「緑丘」前号で中野先生が提案された「緑丘外史」の編集は、小樽商大、小樽商大を問わず、緑丘で学生生活を送った人々、またこれから、送らうとする人々にとっては、極めて有意義なものになると思われます。貴重な青春の一時期を緑丘で学んだことは、その人間形成の上に、有形無形の大きな影響をもつてをり、地獄坂を下つて、学生生活の温室を出て、実社会へのスタートを切つて以後の人生行路についても、常に、緑丘で培ちかかれたものが働いていたでしょう。そう云う人々の足跡、しかも、「こぼれ話」的事件は、意外と、日本的或いは世界的な流れの中で展開されていると思うのです。私は、前に、蓋目先輩に、「日本経済新聞」の「私の履歴書」のような形式による緑丘出身の有名無名の方々の足跡を連載していただいたら、と提案したことがあつたのですが、いろいろの意味で、中野先生の提案には全く賛成です。
ただ、問題は誰が中心となつて、この難しい事業を完成するかにかつていて、緑丘会が打つて一丸となつて」と云う中野先生の指摘された方法に、惜しみなく協力されることを期待しております。

再び「伴先生の書翰と追憶」の刊行について
稲垣 芳雄 (大六)
去る昭和四十年一月三十一日発行

緑丘

の「緑丘」第四十一号誌上に、私は「伴房次郎先生の書翰と追憶の刊行に關連しての一つの考え方」と題する小文を載せてもらいました。

それは、昭和三十六年以来蓋目さん方の手で刊行の計画と準備を進めておられる「伴先生の書翰と追憶」の単行本が、もしいろいろの事情によつて実現が延びるようなら、むしろ「緑丘」の特集号として出されてはどうかという一つの提案でした。

これに対して蓋目さんは、「お詫びと弁明」と題して、単行本の発行は資金面その他の事情があつて延引しているが、四十一年の早い機会に出版に踏み切りたいし、ぜひ単行本で出したいと、書いておられました。それから早急に二年半以上の時間がたちました。その間に蓋目さんは、年六回いつも充実した「緑丘」を刊行しておられますし、「小林多喜二特集号」「苦米地先生特集号」「手塚先生特集号」のような、手こんだすばらしい内容の号も出しておられます。

おそれなく蓋目さんの心の中には、伴先生の本のことがいつも「大きな未完の懸案」として存在し、念頭を離れたことがないだろうと思えます。伴先生の本に対する予約がどのくらいの数になつていのか、私は知りません。

蓋目さんは「お詫びと弁明」の中で、申込部数が二五〇部にも満たなければ、一冊二千円位の本にならう」と、書いておられます。たしかに単行本の形で上梓するとすれば、ある部数まともならなければ、単価が高くなるのは当然です。

単行本として出版することの意味を私は十分認めます。しかし、その予約者数よりもはるかに広範囲な「緑丘」の読者全部に、伴先生について書かれたものを読ませようが、もつと有意義だと私は思うのです。

つまり「緑丘」の「伴先生特集号」の形で、できるだけ早く刊行されることを、再度お奨めします。苦米地先生や手塚先生の分にされたように、まず「特集号」を出されてから、単行本の形で出版する方法をとられてもよいでしょう。もし今集つていられる伴先生に関する資料や原稿の分量が、一回の「特集号」に盛り切れぬくらいあるならば、「続・特集号」を考えられてはいかがですか。

伴先生の本について最近蓋目さんの考へておられる企画や予定を全然知りませんので、以上述べたことはあるいは実情を知らぬもののですぎた言ひかもしれません。伴先生が他界されてから、十年以上になつてます。伴先生に教えをうけ先生を敬愛するもの一人として、正直のところ一日も早くその本を見たいのです。先生の御幽魂も定めし満足されることと思ひます。

緑丘人に考えてい ただきたいこと

小池 輝男 (昭一一)

小樽商大における伴に吾々の時代にこんな立派な先生が居られたことを知らせたいと思つて、手塚寿郎先生の追憶が出版を知つて一冊預けて貰らおうと蓋目君を訪ねた。

「手塚寿郎先生の追憶」の出版を二〇〇部にしてよかつたよ、若しもつと多く出してたならもつと苦しいもつと損をしなければならなかつた処だ。

最初一橋大学の板垣一教授(昭四)や同期の高橋直君等が、五冊、六冊を申込んで呉れた時はまたたく間に無くなるかと思つたんだ、それが一〇〇冊を越える頃から申込みが途絶えて来た。同窓の全ての者が口を開けば「手塚先生は、先生だつた」と云ひ乍ら執筆者すら申込んで呉れないんだからガツカリした。忙がしい中を大概苦勞して皆んなの為だと思つて出したものだけにほんとに情けなかつた。でもお陰でなあ、捨てる神もあれば助ける神もあるつていうが、若山永太郎君(昭一三)などは残つた分は二〇〇部でも三〇〇部でも全部引受けてやらうといつてくれた時はほんとうに有難かつた。東京支部に預けておいた分も全部引き上げて貰つて貰つた。殆んど毎日同窓の誰れかから電話がかゝり「就職をたのみたい」「誰れそれを紹介してくれないか」「こんな件があるんだが相談のつてくれなにか」「等々云つて来るんだが、その連中がこれ苦勞して出版したくない、本には知らん顔をしてる。一時は全く腹が立つて残つた分は自分が引かぶればい、んだから焼却処分してしまおうか、と思つた位だよ、全く単行本の出版はもうこりこりだ。

それになア、申込んで呉れたから送るだろう。そうしたらなかなか金を送つて呉れない。さあ、今度は

送金督促のハガキだ、その時間と手間が惜しいんだ、全く馬鹿げた話だよ。
以上は某日小生を擱えて愚痴を云つた記録である。全く可愛想に思つた。この緑丘はもとより単行本の刊行にしても彼自身の當分の追求では断じてない、むしろ余分の現實的な出費をし乍ら、猶吾々同窓の為にと思ふが故に奉仕的にやつて呉れて居る彼に対して、その事の為に彼を失望させるような事が有つては吾々同窓の恥と云わなければならぬ。敢て皆様方にお考え頂き度いと訴える次第である。

私は私なりに前の「緑丘」もこの号も校正のお手伝い出来た事を喜んでる。
世界にたつた二百冊全部売切れ
「手塚寿郎先生の追憶」
その後の申込全部断わる
日本どころか世界にたつた二〇〇冊より少ない稀観本「手塚寿郎先生の追憶」が編集部にはもう一冊もない、今ごろになつて続々申込んで来るが全部お断りです。
本を受取り乍ら送金してない方は本を編集部へ返却するか至急送金願ひます。

一つの提案

菅野 祐治 (大一二)

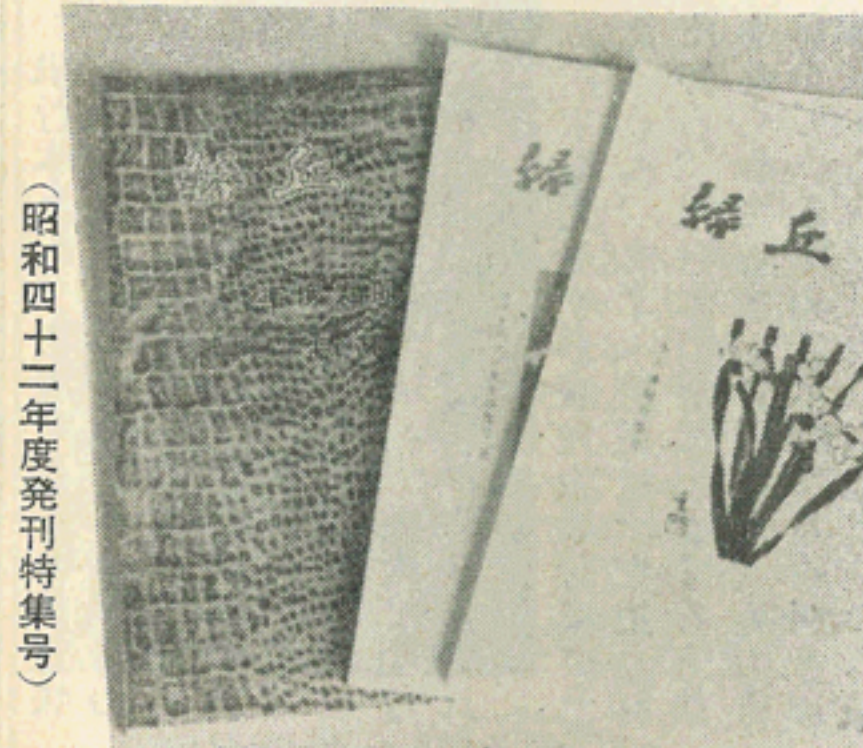
四十三年度受付は開始されている

伴次房郎先生の書簡と追憶 大西猪之介先生特集号 を計画

四十三年度は、この外人講師特集号をもって終りといたします。次号から四十三年度に入りまますので、引き続き御申込下さい。

四十二年度はこの外人講師特集号をもって終りといたします。次号から四十三年度に入りまますので、引き続き御申込下さい。

手塚寿郎先生特集号
マッキンノン先生特集号(Ⅰ)(Ⅱ)
外人講師特集号(Ⅰ)(Ⅱ)
と皆様のご協力によって発行することが出来ました。



(昭和四十二年度発刊特集号)

四十三年度はいよいよ伴次房郎先生の書簡と追憶、大西猪之介先生特集号を計画しています。

伴次房郎先生書簡集は単行本を計画しましたが、「手塚寿郎先生の追憶」で精神的にも肉体的にもそして金銭的にも随分苦しめられました。たった一人でこんな冒険をすることは危険極まりない事を知りました。その為単行本の出版は中止いたします。

現在保管されています諸資料をもとに、出来る限りの努力を傾注したいと考えております。この書簡集を成功させるためにも多数の方々の御申込みと広告のご支援をお願いします。

積水化学工業(株) 旭化成工業(株) 特約代理店 プラスチックの総合商社

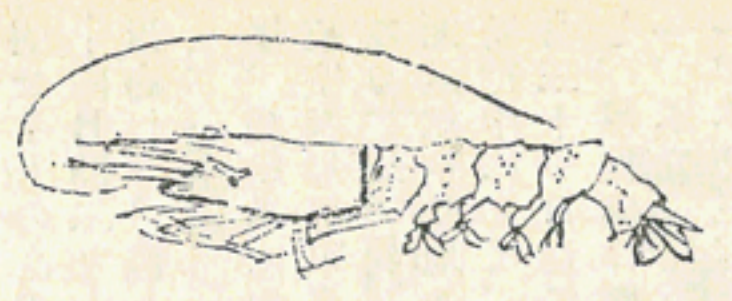
田中弥商事株式会社

取締役社長 田中弥三郎 (大12)

(本社) 大阪市東区北浜2丁目74番地 TEL 065564~9
(東京出張所) 東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地 TEL 032271・5259
(九州出張所) 福岡市奈良屋町2番19号 TEL 093391・6022

編集子自身の言葉によると此の頃めつきり老け込んだという。あの万年青年がそんな事はないと思うが、仮に彼の言葉通りとすれば其の原因は送られて来る原稿の遅れるのも一因だろうが、矢張り経済的負担が第一の原因ではないかと思う。そこで次の提案に賛成願ひ度い。

(一) 誌友を倍加すること。それには出来れば各自が余分に一部づつ申込み、其の一部をまだ誌友とならない緑丘人に送り、極力誌友となる事を勧める事にしてはどうかと思う。それには各自が先ず何かかんか書き送る事、そして其の自分の原稿の載って居る号を懇意の緑丘人に送って誌友になる様勧める事にしてはどうか。



七十五才の誕生日を迎えて

(二月二十八日 読売新聞所載)

大熊 信行

二月はわたしの月である。私事と私情に終始する一文を、ゆるしたまえ。たまに自分の所説に言及したものが、この月には妙に目につくのである。

多田道太郎氏は「マクルーハンの理解」と題する時評(展望3)で、マクルーハンの主張の根本は、メディアの力を見直せ、ということだと説いている。ところが、そういうことは三十二年も前に、日本で論じられていたのだと、わたし(の旧著「文芸の日本的形態」(昭和十二年)から一章を引用し、これを大熊信行の「予言」だとしてい

そういえば、日沼倫太郎氏がその著「純文学と大衆文学の間」において、わたしの旧著「文学のための経済学」(昭和八年)から余暇論と大衆娯楽論を、大幅に、原理的に引用したのも、半年前であった。

高木健夫氏が、その一生の大業である新聞小説研究の中に、拙論「新聞小説家としての夏目漱石」(「文芸の日本的形態」所収)を援用して

楽我記

くれたのも、去年であった。——右の旧著二点は、日本文学史上、いずれも異色の文献として、どうやら位置づけられる日が来ているのかも少しぬ。長生きはしてみるものであ

渡辺一衛氏が「日本の人間関係は不毛か」(展望3)と題する一論で拙著「家庭論」における共産原則に論及しているのはいい。しかし国家論と家庭論との関係が空白であって、まだ論評の域に達したものは、いえないのではないか。齋田豊之氏の「変る家庭観と新しい国家像」(自由3)となると、例によって、ろくすっぽ読みもせず、考えもしないで、軽簿・低調な筆を走らせるだけ。

中村雄二郎氏の「日本の思想界」という昨秋の著作などでも、わたしの家庭論を問題にした一章は、終始モタモタしていた。それに反して、大泉行雄氏の「自然と人と生活」(勁草書房)という同時期の著作では、わたしの思考の両極が、ものごとくに浮き彫りにされていたのが印象的であった。日本人は日本人のものをよく読まない、といわれるけれども、大いなる例外もあるのである。

現代の眼三月号の巻頭論文は、松

大学院設置問題に寄せて

A B C 生

一定の目標をもち、その目標の実現化を期す意欲と詳細な計画のない組織は大学のみならず、いかなる組織も、も早存立する意味を失なうたといわなければならない。

今や多くの大学は、日本の最高の知識と知性の府として自信をもてる存在であろうか。あるいは、産業界に密着した専門知識と技能を身につけた若人を育てる場としての特色を発揮している大学がどれだけあるだろうか。

我が母校に対しても、こうした意味で私は漠然とした不安を感じている。大学院設置の問題にしても、各種手をつくしているが見通しは困難——と聞いているが、その目的、構想などについては余り聞く機会もない。管理工学科の単独設置ならば、とも聞いているが、いずれにしてもむしろ目標を明確にし、そのパブリシティ化の方がより重要なことなのではなからうか。

この「緑丘」に広告を！
次号もまた、外人講師特集号(Ⅲ)に続いて「伴次房郎先生の書簡と追憶」や「大西猪之介先生特集」が四十三年度に刊行する予定です。
この「緑丘」に広告(年間契約)のご協力をお願いします。

戦塵餘録 (八)

|| 苦米地英俊日記 ||

(小樽高商三代校長)

八月一日

十七時発表。一、我陸海軍部隊の敵侵攻に対する戦備は着々強化されあり。二、我制空部隊は一部をもつて本土に襲撃する敵機を邀撃中にし、七月中に収めたる右邀撃戦果中判明せるもの次の如し大型機撃墜四三内B29二九一撃破約一〇〇一内B29約七〇、艦上機及小型機撃墜四七八、撃破約四〇〇、我方都市、工場、艦船等に相当の損害ありたるも航空基地等軍事諸施設の被害は僅少なり。三、我航空隊は其の後沖繩方面敵航空基地並びに艦船に対し攻撃続行中にして、六月二十五日以降七月三十一日迄に判明せる戦果次の如し、撃沈巡洋艦二、巡洋又は駆逐艦一、不祥三、撃破巡洋艦一、駆逐艦一、不祥三、飛行場撃破炎上二六ヶ所以上。四、我潜水部隊の太平洋水域に於ける敵補給線攻撃成果中六月中旬以降現在迄に判明せるもの次の如し。撃沈輸送船二、撃破戦艦一、油槽船一、輸送船二。五、我海上護衛部隊は六月中旬以降主として本土近海に於て敵潜水艦三隻撃沈、同一隻を撃破せり。

以上の一項は妙な発表だ当然の事で何も発表を要しない事、しかも敢てしなればならぬ所に我々の見て好ましくならぬもののあることを示唆する。二項以下の邀撃戦果は誠に微々たるもの、併しこれに生命を賭して居る戦士、その家族の人々には感謝措く所を知らない。「隠忍決戦兵力の蓄積」大いによかるう。だが今日の有様では蓄積どころか消耗の一端、国力失われて兵力独り強大なり得るか。「敵の誘き出しに乗りぬ」のもよろしいが嫌でも出なければならぬ破目に陥る憂ではないか。また出撃意図を封殺され動きのとれぬ事は起らないか、その保証さへあれば国民の焦燥は今日の如くではなからう。今日まで幾多も与えられた安心感が裏切られて来たとい国民は感じている。

学徒隊の学徒戦闘義勇隊への転移が急迫して来ているらしい。その協議会を市議事堂に開催、吉野大尉と二人で出席、何とかいう中尉が函館連隊区から出席、本人は臨席という。学校についても学徒隊についても何も知らず、自分の方の落ちも

知らず、徒らに学校側を攻め立て法規の説明も下手、言う所要領を得ず空威張りだけは一人前、腹を据えかねた校長側からさんざんに打込まれてしどろもどろ、あの若僧が単に背景に権威を振り廻しあの重要な職に在る。危いかな。それが我が皇国の現況。

「燃料行政の一元化」がきまつたとある。民間事業の一元化はやつて来たが肝心な方面は今も変妙に充ちて居る。七月中敵機襲撃、艦上機八〇〇〇、B29四千、陸上機一二、〇〇〇、計二四、〇〇〇、一日平均六五〇、都市潰滅はその数幾何か。

八月二日

和田義男と云う人から電話、俊博の友人那須氏の義兄西宮市高木字中の坪(電四九二)から由仁五二柏木豊之助氏を頼って移住、妻と女児二人を連れ、いくらかの荷物携帯、大阪重工業も開店休業農業転換を志し戦局の一面を語る可し。

B29六〇〇、昨日二十一時より六時間に亘つて来襲鶴見川寄は爆弾で、水戸八王子、品川、長岡は焼夷弾で徹底的に叩きのめされたりらしいその外清水、浜松、関門及び朝鮮の清津にも爆弾攻撃。彼上の外小型機が宇治山田、長岡、郡山等に来襲。「攻撃都市予告」と題下に「現在健全にその都市、外観を保つて居るものは著しく減少して居る」ことを認め残存都市名を列挙してゆけば「必ずその中の何れかの都市が爆撃を蒙るのは当然なことだ敢て特別の戦法というものは出来ない」と敵の喧伝ピラにケチを付け、敵の戦法を嘲笑的に扱っている。併しこの記事から

八月三日

社説の一部「この耐え抜く期間に正比例して敵は補給戦に喘ぎ本土決戦を焦り国内と論並に国際情勢の推移などに伴い諸悪条件に遭遇し敵戦力の全面的崩壊の端緒となるのは明らかである」と、肚からそう思っているのか知らず。

「手持ち資材の交換斡旋」をやるそのな、こうした遍在の原因を来したものは何か、それからは正してかからなければ、不徹底に終る。況んや官製斡旋で統制規則の一部は必要に応じて無視するが価格の枠はずされぬ等云つて居て何が出来るか。「戦災に罷つた場合、衣食住に対する対応策は何等不安なく完備している、後顧の憂なく民防空に挺身され度い」と聞かされて安心して来た。所が黒河内という総監府経済第二部長は「道内の備蓄も極く少量」であるから「各自で保護」さる可きだ。勿論いわれなくとも出来るだけやが容易に仕遂げられぬのが実情。近年の指導は常に始めは脱兎の如く終りは処女の如し、か。景氣よい出発、憫れな後の姿。

「機帆船でも送ろう石炭」おや連絡荷物がなくなつたのか。

い。税法上「妻でない」として取扱われるのは、正式な婚姻関係にないときである。よくある内縁の妻は、仮りに長い年月「生計を一にし」苦楽を共にしていても妻たる地位を認められないのである。

逆に「夫」も夫として認められないことになる。不動産を取得したときは、登記しなければ、その不動産が自分のものであるといつて、第三者に對抗できないが、それと同じで民法の規定に従い戸籍に登録されなければ「わたしはあなたの妻よ」と威張るわけにはまいらぬ。夫が妻の働きによって徒食しているときでも、妻の所得から配偶者控除をうけられない。それにしても税法では奥さんひとり年十三万円ばかりでおやすみいただき、食べていただき、着せることができる、本気で考えているのであろうか。私もまだこまかく計算してみないが、とてもできそうにはない。

別居している場合がある。喧嘩して別居しているが籍にはまだ入っていないとき、離婚する前提で別居しているとき、当世文士仲間流行した別居結婚をしているとき、痛ましい話はやむなく別居しているとき。こういうときには妻の地位はどうなるのであるか。こういう場合でも同一戸籍にあって、妻に年五万円を超える所得がない限り、配偶者控除を主張してうけることができる。妻が給料などをもらっているときは、給与所得控除を差引いたのちの金額が五万円以下であれば、控除の対象となる。これを逆に利用する不心得者が

税金百話 (一)

北条恒一

(昭一五 税政評論家)



子沢山の免税点

「貧乏人の子沢山」という言葉は、近代的な言葉である。大昔は子供を沢山つくることは、貧乏人には困難なことであつたといふのは、妻を迎えることが難しかったからである。経済的な余裕がなければ妻をめとることができなかつたといふことを歴史的事実が証明している。だから余裕のある人達は、需要と供給の原則に従つて、経済の許すかぎり大勢の妻を蓄えることができた。また、そのことが法律的にも許されて来た。近代になり、そういう風習は許されなくなつた。しかし、東洋でもマレーシアあたりは、まだ四人まで妻を迎えることが許されている。貧乏人でも妻をもてるようになる、子供が生まれる機会が多くなつて来た、そこで新しく発生してきた社会現象は金持ちたちは子供の誕生を或る程度に抑制しようといふ努力を払ふことと、その反面、貧乏人は抑制

するのための経済的余裕と時間的余裕がないために、自然現象を抑制できない状態になつたことである。そのために「貧乏人の子沢山」といふことになつたのである。

ところで、先般新聞を賑わしていた「田中代議士」であるが戸籍の面から推測できる彼の子供を生んだ女性は何人である、生まれたい子供は男子十人、女子八人といふ計算になる。戸籍上は一時に二人の妻をもつことはできないが、生まれたい子供は何人でも同じ戸籍に載せることができる。そこで所得税法上、彼が配偶者控除と扶養控除とをうけられる金額を計算してみると次のような計算になる。ただし、控除する金額は昭和四十一年度の改正額(平年度)によつて計算してある。

配偶者控除 一三〇、〇〇〇円
扶養控除(十八人分) 一〇八〇、〇〇〇円
合計 一二一〇、〇〇〇円

所得税法では、日本人の成人が一年間生存を全うするための必要経費として「基礎控除」を認めている。

「妻」である妻

「夫」である夫

その金額が十四万円である。その他に彼は国会議員といふことで歳費をもらつていた。この収入は給与所得であるからこれまた「給与所得控除」を差しひかれる、その最高限度額が十八万円である。そうすると控除額を全部合計すれば一五三万円といふことになり、一五三万円を超えている部分についてだけ税金がかかるということになる。

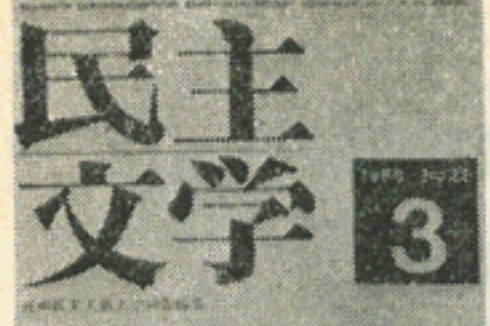
日本で税金の問題とか財政上の統計数値を計算するときに、「標準世帯」といふ言葉が使われるが、この世帯の家族の構成人数は夫婦に子供三人の合計五人である。いま仮に旦那さんがサラリーマンであつたとすれば、昭和四十一年度の改正額で、いくらまで税金がかからないかといふと、配偶者控除、扶養控除、基礎控除と給与所得控除(最高限度額)との合計額六三万円となり、この額まで税金がかからない。個人営業をやっているときは給与所得控除がなく四六万円の所得があれば、すぐに税金がかかることになる。田中代議士は数字に明るいのか、なかなかうまくやつたものだと思つてはばかりである。

「妻」が妻でないときは配偶者控除の適用をうけられない。所得から控除される配偶者控除額は、十三万円である。昭和四十一年分については、十二万七千五百円である。この控除ができるできないとは、納める税額に影響するところが大きい。

「私は故郷に妻をおいています。食べられるようになったらよび寄せます」といって、配偶者控除をうけていた、税務署がその故郷の役場に照会したら、そんな奥さんはいなかったというので、三年もさかのぼって税額を更正された事例がある。こういうことは、人事を担当する人がしつかりしていれば、事前に発見することができたはずである。本人に

二月二十日

二月二十日は小林多喜二惨死の日であり、今年がその三十五周年に当たっていた。北海道新聞は「北海道百年」に小林多喜二をとり上げ、朝日新聞は「民主文学」三月号の座談会をとり上げていた。かつて文学活動さえ非合法だった時代に「蟹工船」が生れ、「太陽のない街」が生れ、今日の公然化された自由の中で大左翼作家が生れないのはなぜか、壺井(繁治)ならずとも疑問をもつと問題をなげかけていた。



民主文学 3
新井 繁治
小林多喜二の文学

「民主文学」のほかに新刊欄で紹介通り「北方文芸」も小林多喜二特集を出している。西日本新聞は

も責任があるが雇主に責任がある。ところで、二人妻といふことがあつた。或る年に妻を亡くしてその年のうちに再婚したとき、このふたりの妻について配偶者控除をうけられるかどうかの問題である。同時にふたりの妻を「保有」することはできない、しかし亡くなって再婚したりすれば、配偶者控除を二重にうけられそうなるものであるが、今の所得税法

小林多喜二と現代

を小田切秀雄が投稿し毎年二月二十日には記念の集まりが各地で行なわれるが丘の上に小林の記念碑をもつその町ではことしはどんな催しも行なわれるのだろうか。死の季節がベトナムばかりでなく日本でもはじまりかけているが多喜二の作品は単なるルポルタージュ文学ではなく諸人物のひとりひとりを、家族や仲間や種々の角度からも照らしつゝ人間像を掘り下げていくという文学ほんらいの機能をもち生動さしていた。彼の作品にはすばらしい点とともにゆがんだところや古びてしまったところもある。アパタもエクボでなく、小林の仕事をほんとうの意味で生かすことが必要であり、可能であると結ぶ。

「定本小林多喜二全集」全十五巻(新旧本出版社)の配本を開始し、今三冊目の配本がはじまった。「小林多喜二小説文庫」全七冊ケース入青木文庫版(青木書店)は一四〇円で発売を開始した。(編集部)

では、はっきりとこういう場合には一人の分しか控除できないと規定している。どっちを控除の対象とするかは、きまりきつた問題で、十二月三十一日現在に現存している奥さんを控除の対象とするのが当然である。死んだ奥さんを対象にしたりすると、とんでもない問題がおこりかねない。

北海道開発調査会

新年名刺交換会開く

北海道開発調査会(佐々木周一会長)は二月九日、恒例の新年名刺交換会を緑丘会の大先輩富永政資さん(大正七年卒)が経営しておられる東上線成増駅近くの川魚専門料理屋「百瀬荘」で会長はじめ三十数人の多数の参加を得て盛大に開きました。

新年会は岡田春夫氏の司会で開かれ、佐々木会長の挨拶のあと、北海道出身で、昔懐かしい「酒は涙か溜息か……」の作詞者として高名な高橋掬太郎先生から、日本の歌の歴史から、その裏話など有意義かつユーモアに富んだ講演をしていただきました。このほか、お客さんとして北海道倶楽部の常務理事・事務局長の神垣明信氏、北海道料理専門店「麗水」(東京山王グランドビル地下)のご主人金沢康江さんをお招きして、ご挨拶をいただきました。会食には富永さんご自慢の川魚の活魚料理やら、北海道のニシン漬けなども用意していただき、いろいろどりのご馳走に舌づつみをうち旧談に塞の現状」をとらえ、「はてしなき議論の後」を発表して、問題を提起したまま、この世を去りました。

小林多喜二随想

緑丘人の多喜二座談会を提案

川並秀雄

私が、石川啄木の文学を正しく理解するために、啄木の足跡を尋ねて、東北、北海道を始めて訪れたのは、昭和十一年の夏でした。「婦人公論」読者グループの皆さんに、講演を依頼されたのも、その動機のひとつでした。

強く捉えたのは、小樽なのでした。啄木の歌に、

かなしきは小樽の町よ
歌ふことなき人人の
声の荒さよ

私はこの旅で、東北、北海道に魅せられ、多くのよき友を得ました。詩人・更科源蔵、小樽高商教授・早川三代治、歌人・戸塚新太郎、高田紅葉、藤田武治、並木凡平(篠原静風)などは、いづれも小樽で得た親友であります。

啄木が小樽に居住したのは、明治四十年九月二十七日から明治四十一年一月十九日までの、僅かの期間です。でもこの時、啄木を訪れた文学青年、高田、藤田は、啄木なきあと、歌人となって、啄木をしのび、啄木研究会を小樽でつくりました。小林多喜二は、小樽高商時代、啄木の短歌に興味をもち、啄木研究会にも、参加しました。

今もう出版されておりませんが昔、「新女苑」という婦人雑誌に、啄木を主題とする伝記小説「林檎の花咲く頃」という作品を書くために、春夏秋冬と北海道を訪れまし

啄木が、「歌ふことなき人々の声の荒さよ」と歌った小樽に、皮肉にも、小林多喜二、伊藤整など、多くの歌人詩人が輩出されました。

極寒の冬、流水の漂ふ釧路の海辺に立って、オホーツク海をのぞみ、網走で正月を迎えて、始めて鮭の鮓を食べたことも、忘れられない印象です。

啄木が歌人として、また詩人として、すぐれていたこと、当時の歌人詩人にはまれな、社会思想をもって書いたことは、我々の知るところであります。けれ共、啄木は貧苦病弱のため、あり余る天分をもちながら、二十七才で夭折しました。「時代閑

万花一度に咲く、北海の春を知ったのも、札幌でした。しかし、何といつても、私の心を

あー またこの二月の月かきたほんとうに この二月とゆ月か いやな月 こいをいばいに なきたい とこいいても なかれない

多喜二のお母さんは、小学校も出ていません。字も書けなかったので

雪が朝から降っています。雪を見ると、遠い昔、北海ホテルの前まで、鈴を鳴らしながら走る馬車に乗って来た小樽の冬を、おもい出します。雪の多喜二忌を迎えなつかしく、多喜二を回想しました。(筆者文芸評論家)

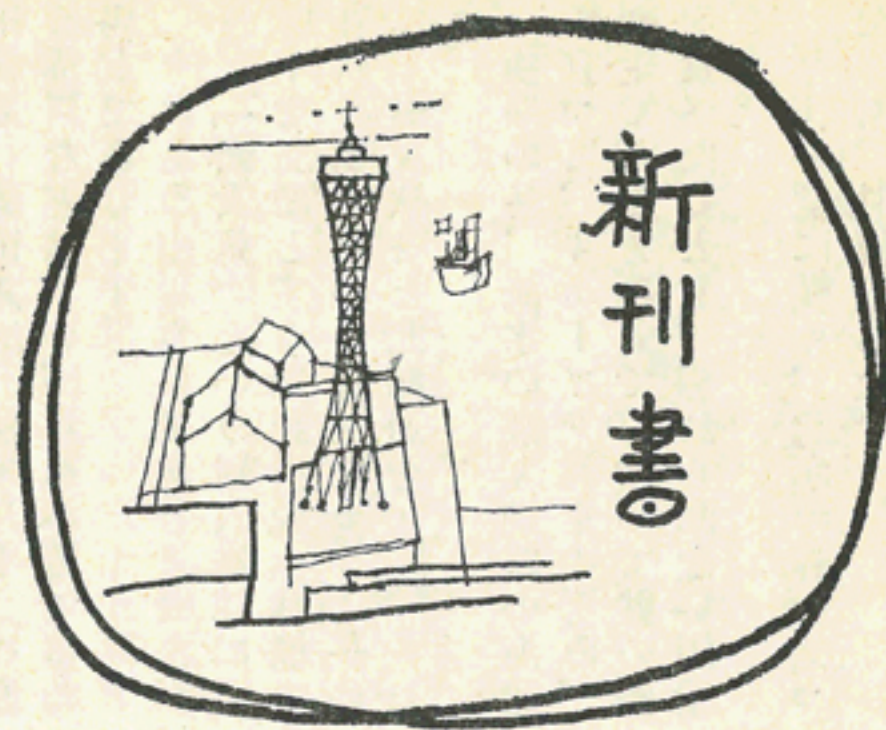
私が、昭和五年八月、豊多摩刑務所に収容された時、多喜二へ手紙を書こうとして始めて文字を覚え、多喜二の作品を姉さんたちに読んでもらって、多喜二の文学を理解しようとしてめました。

私は昨日、小林多喜二をしのぶ座談会の記事がのっている二種の雑誌を、友人から寄贈されました。「民主文学」と「北方文芸」です。「北方文芸」は、さすがに、多喜二と密接な関係のある方々との座談会でしたから、多くの興味を覚えましたが「緑丘」小林多喜二特集号も、随分よい参考になりました。

そこで、「緑丘」の皆さんにお願があります。多喜二三十五週忌を機会に、こんどは先生方を交え、同窓の方々を中心に、前回と異った話題で、どの雑誌の座談会にものらなかつたような催をされては如何ですか、皆様方の御一考をお願いします。めぐり来た二月二十日を迎えて、私は小林多喜二文学碑にきざまれた、多喜二が一九三〇年十一月十一日、村山芳子宛に出した手紙の一節を想起します。

冬が近くなると、ぼくはそのなつかしい国のことを考えて、深い感動に捉えられている。

今日は、阪神地方には珍らしく、雪が朝から降っています。雪を見ると、遠い昔、北海ホテルの前まで、鈴を鳴らしながら走る馬車に乗って来た小樽の冬を、おもい出します。雪の多喜二忌を迎えなつかしく、多喜二を回想しました。



東口環著 (三百部限定)

比島作戦と河島兵団

「東口環氏(大二三)が書いた文章はたしかに洗練されたものではないが記憶をたどって刻明に書きしめたこの手記は文章を超越して一読して私の胸を強くうつものがあつた」と中学の同窓川良雄氏(石川県議会史編集室)はいう。

この書には輸送船が敵艦の攻撃によって沈没するまでの経緯、海上に漂流すること八時間に及ぶ間の将兵の姿、フイリツピン人宣撫工作中にあらわれる崇高な人類愛の精神、密林に彷徨する将兵の内には飢えるため互に糧食を盗み合い、果ては上官の肉まで喰う生地獄の悲惨さ、捕虜収容所におおなる将校殺害事件など、銃後の人々には想像を絶することどもが淡々として叙述されている。

特に当時の攻撃要図が十数枚刷り込んであり、克明な日誌風に日を追って書かれているので、この記録を助けている。

かつて比島遺骨収集のため代表者派遣記事を新聞紙上で発見、ルソン島地図に各隊の戦死状況を地図上に印をつける提案に対し何らの返答もなかった事にいきどおりを感じ独自の立場で社会へ報告しようと決心したのがこの書である。

東口氏の三〇〇部自費出版であるが希望者は左記へ直接注文ありたいとの事。

頒布価四〇〇円(一八五頁) 函館市弥生町二一―一七 東口環

毛利昭子著

「てっせん花」



昨年(の)二月二日、小樽市の自宅で不慮の死をとげた毛利昭子さんの遺稿集。全道の婦人団体連絡協議会の会長をつとめ、道の教育委員、消費者協会会長など数多くの公職をもつていた毛利さんが、生前折りにふれて新聞や雑誌に発表していた文章と講演記録をまとめたもの。

三児の母になつてからアメリカ留学を果たし、さらに数度にわたつて海外視察の機会をもつたこの人の外国紀行や、道教育委員としての道内教育事情視察記、婦人大会における講演内容など、いまさらこの人の才気と見識をしのばせるが、ページ数の三分の二を占める短文集には心にしみ入るような女ごころもあふれている。

「あなたかた、ほんとうにいいわね。何もかもこれからですものね」(若いひとに)

「ちち(しゅうと)がなくなつた。六十有余年の一生、徹底して妻を愛し、妻を誇りにして生きてきたちちであつた。縁あつて夫婦になつて、ひとりひとは実にいい人なのに、お互いの期待がうまくかち合わずさよなら幸福感の味わえない不運な組み合わせも少なくない。その点、ちちとはとは世にもまれな幸運な夫婦であつた」(ちちをおくる)

題名の「てっせん花」は、この花はこの人が生前もつとも好んだためという。表紙にこの花を描いた栗谷川健一さんは「てっせんはささげと似た花の大ききの割りにその茎は細く堅い。彼女の生涯を暗示した花のように思われてならない」と記している。

北海道が全国に誇れたこの婦人活動家の豊かな知性とひそかな孤独感を伝える本である。(札幌市南三西六グランドビル三二八号北書房刊・頒価三百円送料七十円) △北海道新聞「わが家の本だな」から▽

月刊「北方文芸」(なにわ書房)

小林多喜二特集



「北方文芸」第三号は小林多喜二特集号である。

昭和四十一年十月に札幌で開かれた北海道文学展では新しい資料が発掘されたといわれているが、この小林多喜二特集という企画によって新しい資料が出たのではなからうか。座談会「小林多喜二の思い出」では佐藤チマ(多喜二のお姉さん)島田正策(多喜二の友人「クラルテ」同人)武田運(多喜二の友人「クラルテ」同人)などのかつて「緑丘」多喜二特集号に執筆された方々や藤橋茂(多喜二の友人「山脈」同人)の四人によって語られ、田中絹代がデビューしたばかりの時にあんな娘はいいなと小林と話したことがある。(武田)とかチャップリンが好きでチャップリンの真似もしていた。(佐藤)とのことである。

志賀直哉を好きになつたのは「文芸往来」(菊池寛)の「城の崎にて」を読んだ頃からであるらしい。緑丘の特集に片岡良一氏(大一一四)が執筆している「志賀の字を真似て、近く渡道する旨の手紙をだしたんだな。すっかり喜こんでやっていた」(笑)も語られている。

昭和四年小樽高商文芸研究会発行の「北方文芸」第七号に掲載された「かう交つてゐるのだ」や同じ年、大阪朝日新聞に書かれた「北海道の(俊寛)」も転載されている。浜林正夫氏(東京教育大学)は「小林多喜二碑のこと」で「この碑の建設運動のひとつの副産物として小樽商大同窓会の有志の方が「小林多喜二特集」をつくって下さつたのは、思いがけないよるこびであるとともに貴重な資料となるものであらう……」と書き添えてくれた。田口タキのことについては宮野駿が「小樽市手宮小学校を一番か二番かで卒業したしっかりした気性の少女であつた」という。たしかに多喜二研究資料であらう。

北条恒一著(昭一五)

税金を軽くする事典



世界で一番税金の重い国、それは日本であると税制評論家北条恒一氏はいう。

だから羊のおとなくとられるにまかせておくわけにはいかな。税法はとり立てる側から書かれています。だから第何条にどう書いてあるというよう難解な税法中心的な表現を避けて私たちが税金を納めるもの立場に立つて、こうゆう場合にはこうすればよいという書き方をしてみました。

著書として幾冊もの税金対策の著書があり、毎号この緑丘に、毎日新聞「税金」欄の記事を紹介しているのであるが、すでに三クールにもなると筆もさえ、納税者の立場になつていゆる素人にもすぐわかる筆のすゝめ方であり、サラリーマンに役立つ好著である。しかも出版社がダイヤモンド社で仲々抜け目のない企画である。

こうして申告すれば得になる(第十二章)など確定申告記載例を具体的に数字を入れて例証している。☆アルバイト収入があつたとき ☆退職金をもらったとき ☆住宅資金を借りたときはどうなるか

☆医療費控除の受けかた などではまづ先に電車の中で読んだが理解し易いように導入方法には特に気をくばってさりげなく問題の中心へ誘ってくる。

必要経費の算定はどうするかも教え、奥様、息子のアルバイトと税金についても要領よく書かれている。紹介が前後したが税金を軽くする心得十ヶ条の中には税務署に対抗の心得も目立たないようにチャリチャリとほめかしている。一家に一冊お求め下さい。一万部が売り切れ追刷り(三版八千部)をしているとの事である。(ダイヤモンド社発行三二〇円)

SはQに優先する

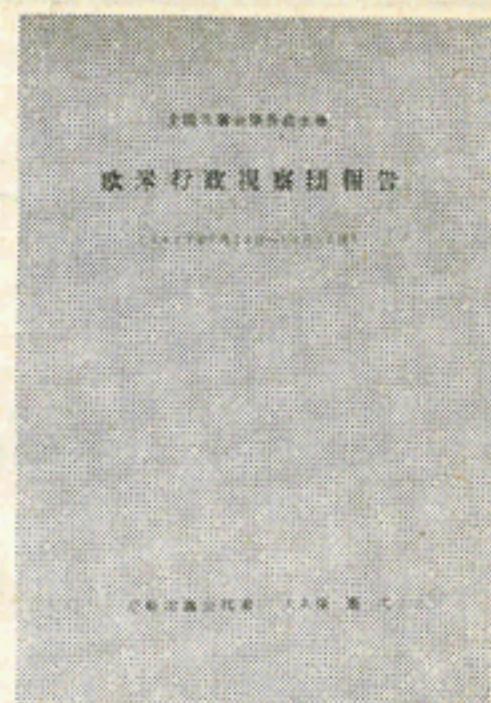
わが社は「最善の奉仕」をモットーにSRQ方式による営業の推進をはかっております

S=SERVICE(奉仕)
R=RESULT (貢献)
Q=QUOTA (割当)

- 第1……お取引先に奉仕(SERVICE)する
- 第2……その奉仕がお取引先の業績・成果(RESET)に貢献する。
- 第3……それにより初めてわれわれの割当(QUOTA)が達成される。

わが社の使命はお取引先の技術革新・生産性向上・合理化に貢献することであり、SERVICEを第一義とし、SはQに優先するを合言葉といたしております。

丸嘉機械株式会社
大阪市東区豊後町41 <(941)-0271>
専務取締役 若山 永太郎 (S-13)
常務取締役 高野 憲一郎 (S-13)



大久保鹿式(大一二)

欧米行政視察報告

この表題は全くいかめしく一寸頁を開いて見る気のないパンフレット(七三頁)である。

この報告書は尼ヶ崎市議会代表大久保鹿式氏(大一二)の筆になるもので一九六七年九月二十六日—十月三日(約四十日間)のかけ走りの報告書である。インド、ソビエ

ト、スエーデン、西ドイツ、オーストリー、イタリヤ、スイス、ドイツ、オランダ、イギリス、カナダ、アメリカを廻って帰られたのであるが頁をめくるに従って先へ先へと読ませていく。文章が大変うまうま、要所、要所をうまうま、風景描写もまた本格的な文学的筆がすゝむ。世界に飛んだ事のないものには全くダイジェストとして現在の

世界各国を紹介して貰える。職掌柄学校施設、道路行政、選挙、租税、市議会構成などにもふれるが筆者も心得えたもので、それらの事柄が物語りの中にとけ込ませて報告され、知らず知らずの中に全巻を読ませる。この報告書で発表されない夜の視察も何時の日か口頭で発表のある事を期待する。(非売品)

穴(四) 室谷賢治郎

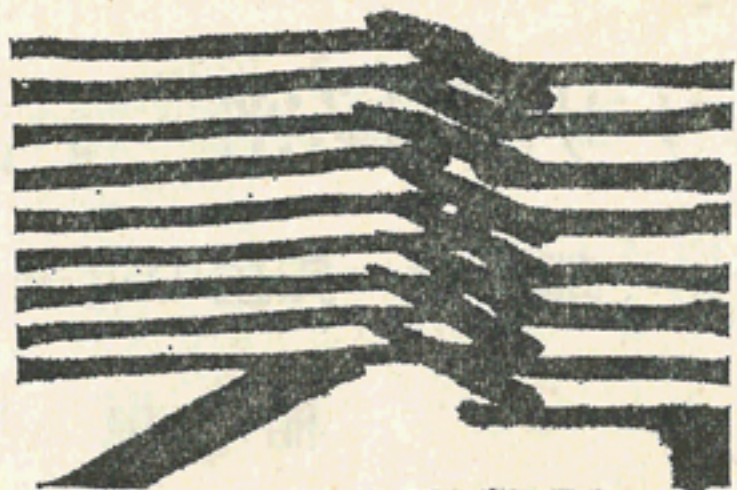
いよいよ穴はどんじりへ入ります。舞台は札幌の最も賑やかな駅前通り、大衆の娯楽殿堂を以て自負する一軒のパチンコ屋の「グランドアカシア」です。札幌グランドホテルの向側に陣取る店であるところからグランドと命名したかどうかは存じませんが、その横文字に書き表わしたのがGrand Akashiyaとあるのです。純粹の英文にするのならばGrand Acaciaとすべきでしょうし、ローマ字を使うのであれば前記の小樽のH・ホテル流にGurando Akashiyaと大胆不敵に色硝子を使うのも唯我独尊と言えそうです。偶々緑丘の畏友フランス文学担当の松尾正路教授と一緒にこの店の前を通って語りましたところ、驚かされたことにGrandという綴はフランス語では植物の「どんぐり」を指す



世界万国博の印象

—モントリオール—

大久保 鹿 式 (大一二)



パリを一〇時半に発った一行は大西洋を一気に渡り八時間後、現地時間で午後一時半モントリオール空港に着いた。モントリオールのホテルの多くがアパートメント形式であるとは聞いていたが我々の泊ったホテルはあまりにも粗末なものであった。国の内外から五千万人という予

想をはるかに上廻る観客を集めたことのはしむ寄せでもあろうか。とにかく宿のことはあきらめて翌二日終末間近にせまった万博見学に出掛けた。 今回のカナダ万国博のテーマは人間と環境の問題を考へるとして「人間とその世界」と定められていた。 出展参加国は六二ヶ国にのぼり、一九五八年に開かれたブリュッセル博の四八ヶ国を破り史上最高となった。 展示館も外国政府が四一館、民間が二三館、それに地方公共団体、国際機関など合せて七四館が建てられ、それぞれに競っていた。会場全体について云えば川にはさまれた島を利用し、それ等の間をEXPO特急が結ぶという非常に恵まれた立地条件であったといえるが、テーマから受ける印象は薄いものであった。 しかしながら、シーズンパスポート(全期間通用定期)などが発売され、また全部をくまなく観るためには最低一週間は要するといわれている施設を僅か一日で見学するとあつては受ける印象が弱いのも止むを得なかつたことかも知れない。とに角お目あてのアメリカ館、ソ連館、イギリス館等広大な面積と大きな費用をかけた施設を見ようと思つたが大変な行列でこれだけで日が暮れてしまふ。止むなく片はしから簡単に見られる所をえらんで歩を進ぶ。それでも地元開催国であり、折から建国百年ということで七〇億円をかけて造られたといわれるカナダ館だけは行列をまわつて観ることが出来た。なおカナダでは全カナダがこぞつてこれに参加することが第一目標とさ

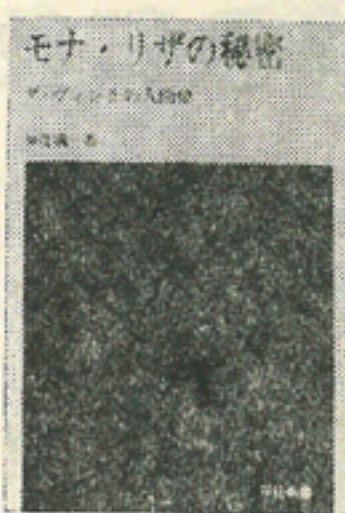
れ、一〇州全部が五億円を投じて展示館を建てたといわれていたがこれなども、人氣が集中して大変な行列であつた。あいにく途中から雨が降り出したりなどしてこれも視ることが出来なかつたのは心残りであつた。日本館については建物とは他国に比べそれ程見劣りもするとは思えないが展示品はもう少し一考の余地があつたような気がするし、テーマに対する焦点も何かぼけているような印象を受けた。しかし館の横手に造られた日本庭園は非常に美しいもので観客の大変な人氣を集めていた。またそのそばに設けられた日本料理の食堂も珍らしさのせいか昼食時などは外国人の長い行列が外で待たされている風景が見られ、これら脇役の面では大成功であつたと云えよう。日本館の案内女性からチェック館なども評判が良いと聞かされた。 また街から会場へ通ずる道路は広く立派ではあつたが、それでも会場近くでは車が混雑して長い列をつくっていた。一方帰りなどは小雨のなかで多くの人が一時に集中したにも拘らず次々に来るタクシーで割合スムーズにさばっていた。

会場正面は敷地にゆとりがなかつたせいか、道路にまたがって板敷の広場を人口的に造つてあり、正面広場に於いては粗末なものとの印象を受けた。更に上り口がいくつにも分れており簡明さを欠いている(現に二台のタクシーに分乗して会場を訪れた我々もタクシーの降り口がそれぞれ違つたために非常に迷惑を受けた)。また板敷のため雨の際あちこちに水たまりが出来ると同時に滑りやすく、何人かころんでいる人を見かけた。会場を結ぶ輸送機関はミニレール、ミニ路上車、人力車などもあつたが、これらは殆ど観光用で実質的な役目を果しているのはEXPO特急といわれる電車一本であつて、常に超満員、輸送の限界を超えている感を深くした。そして駅区間が長く、展示館から他の展示館へ一日中足を運ぶのは相当に疲労を感じる。 ベンチが少ないのも一つの不満であつた。案内標識にしても僅かしかなく今少し親切さが欲しいと思われたい。駐車場設備については広く充分にゆとりがあり、完備されているように思われた。しかし、次回日本で開かれる際には、「国力、技術水準を考へてもっとましなものが出るのでは……」という感じを受けた。 一九七〇年の開催をひかえて関係者一同大変な御苦労をされておられるが、人類の進歩と調和をテーマとする日本のEXPO70が成功をおさめることを大いに期待したい。 夜、万国博のためにつくられたという地下鉄が近くを通つてくることを聞き、それに乗つて市の中心街へ出掛ける。駅も車体もなかなかきれいなものだった。一番大きいデパートを聞き、入つて見たが、床面積の広い割に品数は少なく、人も閑散としており、日本のような賑やかさ、にぎやかさはない。街のショーウィンドには万博記念のメダルや絵はがきをはじめこれにちなんだ土産物が売られ、街中が万国博に色染められているという印象を強くした。(欧米視察報告書から)

モナリザの秘密・を読む

加茂儀一先生の近著

稲垣芳雄 (大六)



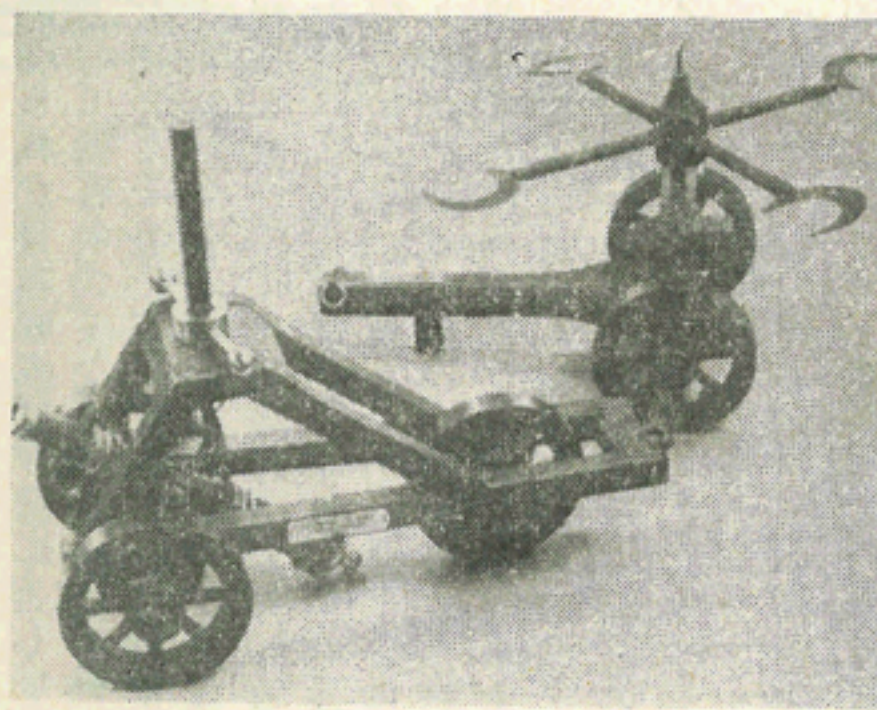
偶然書店で、母校の前校長加茂儀一先生の近著「モナ・リザの秘密」を見付けて、直ちに求めた。私は先生の著作をこれまで全然読んだことがない。しかしこの書を拝読して、先生の文章とその内容にいたく敬服した。

私は青年のころ、ルネッサンス時代の三人の芸術家に興味を持ち、その作品の複製や画集に夢中になったことがあった。私は、レオナルド・ダ・ヴィンチが最も好きで、ことに「最後の晩餐」や「モナ・リザ」等は、忘れることができぬくらい強い感動をうけた。

先生は実によくレオナルドを研究されていて、その閥歴、人柄、才能、芸術等を、きめの細かい、暢達な文章で、要領よく、しかもレオナルドに対する敬愛の情をこめて、まことに見事に描いている。この文章のまとめ方と表現の手法は非凡である。

レオナルドは、すでに多くの人のちの知っている通り、単なる芸術家ではない。おどろくほど幅の広い分野にわたって一流の科学者であり、技術家である。およそ芸術とは相容れないと思われる科学や技術が、レオナルドにおいては、不思議に緊密な関係があり、むしろ渾然として一体化している事情と理由を、先生はまことに正しい理解をもって、つぶさに述べておられる。

レオナルドは、その心の赴くままに、科学や技術を研究する時間が多すぎたためか、芸術作品は必ずしも多くない上に、未完成のものが多い。かすかなるものがある。



先生は、レオナルドの主たる作品についてそれぞれ行き届いた解説を試みたあと、世界的傑作ともいうべき「最後の晩餐」と「モナ・リザ」に関しては、相当のページをさいて、これ以上の解説は望めないと思ふほどすぐれた解説を書いておられる。先生のレオナルドに対する造詣の深さをしみじみ感じ入るくだりである。

レオナルドについて先生の語ると

ころには、すでに私の知っていることもあったが、未だ知らなかったことが多く、私は非常に啓発され示教を受けた。

著書の題は「モナ・リザの秘密」となっており、先生はこの解明に大きな努力を払っておられるが、同時に先生は、「最後の晩餐」の秘密にも触れているし、さらには、レオナルド自身の間および芸術家としての大きな秘密にも説き及んでおられる。

私生子として生れ、幼少にして実母と生別し、波瀾に富んだ独身の生涯を過し、六十五才でこの世を去った偉大なレオナルドは、後世先生のようなよき知己により、このようなすばらしい評伝をまとめられ、もし霊あらば定めし感謝しておるに違いないと思う。

人間の頭脳の中でも特にすぐれた夫れを恵まれた上、努力に努力を重ね、人間の叡智の極致に至ったと思うレオナルドに、今さらながら驚嘆する。

先生のこの著は、レオナルドに対する私の関心を復活させる魅力があったようである。私はこの本の読後、レオナルドの画集を取り出してながめたり、レオナルドの手記のあちこちを拾い読みしたりした。

先生の本の印象が非常に強かったので、読み終った夜は、床の中でレオナルドの顔や「モナ・リザ」「最後の晩餐」「予言者ヨハネ」「岩窟の聖母」等の画が次々に眼にあらわれ、またレオナルドの生涯が思い浮べられ、ついに眠りを結びがたかった。たしかに立派な著作である。

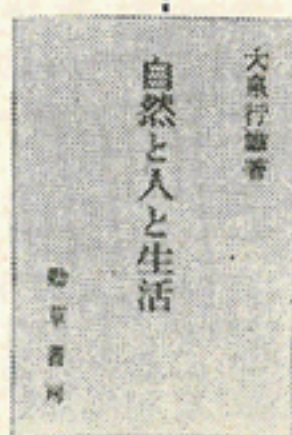
(加茂儀一先生著「モナ・リザの秘密」日経新書六七……二六〇円)

(写真)
レオナルド・ダ・ヴィンチの図面によって作ったといわれる首切り戦車などの模形(前号「某月某日」参照)

「自然と人と生活」を読んで

大泉行雄氏の(大11)近著

小池哲二 (小樽商大一年)



この本の著者は小生の先輩にあたる方ですから本書を読み進んでゆくうちにも他の書物を読むとは違った親近感を覚えている自分に気付いていました。それだけに感銘も深かったと申せます。それで、若輩の虚言

にすぎないことを知りながらも、しかし若い世代の一人はこのように考えているのだ、とそれ位の気持ちでできるだけ正直なところを書いてみたいと考えます。

表題の示す通り本書は幅の広い分野にまで渡る考察がなされて居り、本書に貫してみられる「人と社会との問題」を深くみつめる学問的態度に強く心を動かされました。しかも筆致は万人に理解されるように心配りされたものであり、意義深い人論を目的としたような気が致します。

その中で最も印象深かったのは第二部で述べられている教育論です。「反抗期について」の章で「いったい物についても、あるいは精神についても新しいものが生まれてくるためには、これまでの古いものとの対決がまずなされねばならぬことです。およそ発達とか成長とかいわれる現象のうちには、このような対決と、それを越えての前進という論理を予定しています。これはあらゆる場合の運動の法則であります。」と述べ、このような弁証法の論理に基づいて子供の成長過程をとらえねばならないと説かれます。

一般に児童心理学に於いて「いちじろしく自我の意識が強くなり強烈な自己主張が目立つ時期」を「反抗期」と呼ぶのですが、しかし弁証法的にみるならば「いわゆる反抗期」というものは自然の生長過程にすぎません。それをおとなの側から反抗とよめることは正しくないと述べて居られます。即ち自然成長過程にある子供自身は、すこしも反抗などと

意識していないのにおとなが自分たちの既成観念に合わないもの、これと相入れないものとして一方的に反抗とするのには誤りがあると述べられるのです。そしてこの認識「子供行動のすべては成長の自然過程である」という認識にたつて、この上での成長の自然過程にどのような方向性をもたせてゆくか、あるいはどのようなに矯正してゆくか、という具合におとなが考えてゆく処に真の教育があるのだと著者は述べます。世のすべての親、社会の教育者、そしてやがてそうなるであろう、すべての青年が胆に銘じておかねばならない大切な事だと小生にも理解されま

十七、八歳の自我に自覚する時期を個人発見の時期と筆者は述べて居られますが、この時期を通じて来た小生にとつてきわめて印象深い記述があります。「そこであらゆる自分の外の権威に対して、批判的となり時にはこれとたたかき、これを退けこれを倒し、自分の存在を高揚しなければ止みがない気持ちに駆りたてられます。ある場合には、こうして一切の権威を否定して、この世界、この人生を自分自身であくまでも解き明かそうとします。しかしこの深遠な世界や人生が、そうたやすく会得できるものではありません。そこからは深い懐疑や煩悶があらわれ、厭世観に囚われる青年もあらわれたりします。これもまた、この時期のいちじろしい傾向といわれましよう。」

「こうした精神的にもなかなか烈しいひたむきの状況にあり、きわめて危険な時期」を経てやがて青年の目

は除々にひらけ、社会と自己の關係に気付くようになります。天上天下唯我独尊といった自我意識過剰の心的状況から脱皮してゆくわけです。

「いままですべての権威を退けて自我を高く掲げ、自己の尊厳を自分自身で感懐し陶酔した境地も、いったん冷静な気持ちにかえり、一層高く広いところから眺めれば、そのような自分というものが、実は自分を取りまわす大小さまざまな人間関係、つまり社会によって、はじめて養われ、護られ、育てられてきたことに本當に気がついてきます。……中略……」

そういう大切な自己を育てあげてくれた社会の重要さが、本當の意味で自覚されてまいります。この時期を「社会発見」の時期ということが出来ます。」と著者は述べられます。

そして真の社会人とは、自己の社会的役割を認識した人間をさすのだと指摘して居られます。小生も現在真の社会人への道を歩んでいるのですが、思うに自己発見をし、社会発見をした多くの青年が、この矛盾に満ちた社会状況に気付く、その壁にぶつかりぶつかりして壁を破つていこうとするまさにそのところに、唯一の真の社会人への道があるのではないでしようか。

自己の社会的役割を積極的に担うなかで社会の浄化と自己の浄化を考えていこうとする人間、すなわち自己を見失うまいと努力する人間が真の社会人であるとするならば、現在の社会人であることにはあつて、そのような社会状況のなかにあつて、「真の社会人」たることの困難は小生にも理解できます。しかしながら前

進しようとする以上我々は真の社会人たるうとして生きねばなりません。そのためには、どの様な思想を持してゆくべきか、という命題をたえず背負って生きてゆかねばならないと思われまふ。以下、真の社会人たるために、ということ念頭に置いて私見を述べてみます。

本書において筆者は自然界を支配する根本原理を追求し、そこから相対立する「自由」という思想と「平等」という思想が生まれてくることを指摘されます。そして経済活動においては「自由」という思想から資本主義経済体制が生みだされ、「平等」という思想から社会主義経済体制が生みだされてきたと述べて居られます。「生活の根底にある二つの原理」のところでこの論理は展開されています。生活原理という原則にたしかえって人間の社会をみつめそこから複雑な社会を分析してゆく態度に接して、はじめ「自由」という思想、「平等」という思想がどのようになつて生まれてきたのかというところ、そして「自由」という概念と、「平等」という概念はいわば光と影のような関係にあり決して分離して考えることのできるものではないことを知るようになります。小生の最大の収穫はここにあります。

自由競争にささえられる「資本主義の経済体制には、個人生活に対する国家的保障というものは存在しないのが原則」であり「生存権や社会保障というものは本来の資本主義精神とは対立する」にもかかわらず我が国が現在生存権等の権利を獲得し

るようになったのはそこに平等の原理が作用してきたからであると述べて逆平等の原理にささえられる社会主義国家が変化しつつあるのにもそこに自由の原理が作用してゆく必然性があるからだと言及されて居ります。

そこで、我々が社会の浄化を、即ちよりよい社会を追求しようとするかぎり、それが観念的もしくは幻想的であつたとしても、一つのユートピアを持つことは極めて大切なことであると小生は考えます。そのユートピアを求めようとするとして、自己が資本主義経済体制内に生活するから、その既成事実を肯定した上で改革を考へる思考方法と、イデオロギの問題を原点までもどして、答えを導きだす思考方法とに大別することができると思ひます。前者は現実を重視する考え方で後者は観念を重視する考え方です。この本の著者は前者に基づく考え方をして居られ、社会主義的な立場からの資本主義に対する批判に反論して居られます。そしてソ連に於けるリーベルマン方式導入等を例示して社会主義国の変質を述べているのですが、しかしながら社会主義精神そのものは、その平等性において認めているように思われまふ。また、前記したように自由競争がその競争の結果、しばしば敗者から自由をうばうことを指摘され、その批判として平等を指す社会主義思想が生まれてきた必然性も筆者は認めています。

即ち資本主義思想と社会主義思想を同等程度に理論上は肯定しておられるように見受けられます。それ

は何故に資本主義を筆者が是認するようになったのかという問題が生じるのですが、少なくとも筆者は理論的自信をもって資本主義を肯定するようになったのではないように小生には思われまふ。ただ筆者の「われわれが国民の経済を全体として取りあげるとき、一國の経済が成長を目的とするのは、その結果として、国民の経済生活が向上し、生活水準が高められることをねがうからです」(三二頁)「資本主義国と社会主義国との対立という形で問題が取りあげられますが、観念的な対立観は、今日ではむしろ生活現実的な要因によって、いまや背後におしやられつつあるのではありませんか」(九四頁、九五頁)の記述から推測すれば、その心はある程度理解できますが、しかしそこには曖昧さがみられ、多々批判の余地があるように小生は考えます。

その他住宅問題、都市問題、教育設備及び教育対策の貧困、為政者の本末転倒した思考法、消費ブームのひずみ等々現社会の矛盾を著者は指摘して居られました。ここでさらに一つ疑問に思ふのは、将来、これらの露呈したあるいは露呈してくるであろう諸々の重大な矛盾を消滅させるだけの可能性及び計画性というものがあるか、というイデオロギイが内包しているかということな

僕の書齋

芳賀 厚 (昭和28年)
(札幌・北海道銀行行啓通支店次長)



今この原稿を書いているのが僕の書齋なのですが、八畳間の一方の壁が書棚になつていて大小とりまぜ約千余冊の書物がガラス戸の中に納まつています。僕の二代前が会津若松鶴ヶ城落城以後北海道に渡り函館、室蘭を転々とし札幌の現在地に落着いて建てたレンガ造りの家も、種々の事情から昭和三十九年にとりこわし僕が構想をねって新築した建物の一番北西隅の部分がこの書齋なのです。自分で自分の考えどおりに建ててはみたが三年も住んでみると贅沢な話ですがやはり気に合はぬところが出て来て、この次に建てる時はこんな構想でなどと考えはじめるよ

うになりました。書齋は玄関からすぐに入れるドアのほかに、茶の間の方と、また洗面所、トイレに通ずるようにもしてあります。そして新築の際、思切つて設備した温水暖房の放熱器が二ヶ所書齋内にあります。もつとも北海道の厳寒に対処するためガスストーブもつけました。書齋の窓からは正門から通ずる庭が見えますが、春になると草花の種をまき夏から秋にかけて色とりどりの花を書齋から眺められるように土いじりするの僕も楽しんでやっています。書棚と向き合つて、三条実美の筆になる「楽春」の額も見上げる度に書齋を暖めてくれているような感じがします。

さて、僕が書物らしい書物を自分のものとして手にしたのは金沢庄三郎博士の「広辞林」が最初だと思ひます。これは中学に進学した記念として小学校の恩師が僕に与えて下さつたものですが、今でもわが家の国語のパイロットとして活躍しています。また中学一年生三学期にやはり恩師から頂いた塩谷温博士の「新字鑑」は名実共に手ごたえのある第二冊目の書物であります。恩師はその年夏フイリビンの戦場にむかう途中輸送船が魚雷で沈められ戦死されました。この「新字鑑」を手にするときは反戦論者であつた亡き恩師を思い出すのです。

蔵書などと大袈裟な言ひ方は出来ませんが、大別すると職業がら銀行実務関連のものが多く殊に法律の書物が可成りあり、次いで外国語関連の書物、商業、経済のもの等で大半を占め、一般教養(?)的なものが約

三分の一位の割合です。勿論大西猪之介教授の「因はれたる経済学」と「伊太利亜の旅」は一等星の如く書棚に輝いています。そして外国語関係の部では申すまでもなく苦米地先生のあの部厚いバイブル(?)やゼミナールの恩師木曾教授の「商業英語活用辞典」がガラス戸に「コレボン・コレボン」と僕の年々低下する英語力に活を入れていた次第です。書棚の中には西語関係のものが散見され、書齋で応接する来客などが目にとめ「貴方は変わった勉強をしていますね」などと言はれることが屢々ありますけれど、実は西語を勉強するようになった動機はそもそ緑丘に学ぶようになった昭和二十三年、丁度今から二十年前にさかのぼりますが、新渡戸稲造博士の随筆集を読んだことにあります。その随筆集の中に新渡戸博士は青年時代自分は太平洋の橋になるのだと決意して勉強されたとあります。そして文字どおり博士の一生はそれを具現して余りあるものがあつたわけですが、僕はこの随筆集を読んでからは、新渡戸博士が太平洋にかけた日本と北米の橋よりも、もつと大きな橋を日本と中・南米にかけようと考えたものでした。

ご承知のとおり中・南米は伯国をのぞき公用語は各国みな西語です。こんなことから僕が西語かじりをはじめたのですが、当時勉強するにも戦後のこととて参考書は揃はず、仕方なくブエノスアイレスから新聞をとり寄せたりしたこともあり、花村教授や同様の諸君とはこの僕の新聞でナマの西語の勉強をし合つたこと

も今はなつかしく思ひ出されます。家庭の事情などから大きな夢も頓挫となりましたが、三子の魂何とかやらで西語のリンガフォンも手許にはありますけれども、日に日に多忙をきわめる仕事のためにコレボン同様な西語力の低下という情けない状態です。玉井教授が、「語学の一年間の錆は磨き落とすのに三年間はかかりますよ」と言はれたお言葉が今になつて僕の胸を強く締めつけます。

書棚には独・伊・露・仏・葡・エスペラント等の参考書、辞書類が英語のほかにチラチラして見えますが在学時代図書館の大西文庫にノールウエー語の参考書を見つけたひもどいた時、大西教授の博学の一端を発見して感謝したことなども、ガラス戸に僕に話しかける若き日の思い出です。

しかし、語学の部のすぐ右隣には金融判例総覧、現代法学全集、はたまた貸付整理、強制執行、貸出審査事典等々すぐ現実に自分を立ちかえさせる「生活のかかった」本が並んでいますから、何も仕事をしないでボンヤリと書齋に坐つて居る時は複雑怪奇なるムードにつつまれます。蛇足ですが、茶の間の座右には百科事典八巻を置いて一日に一度は手にするこの頃で、日進月歩の現実におくれまいと努力もしています。寝室の枕もとにも常に数冊読みさしたの本がありますが、家内は「将来どんな構造の家を建てようか、本の見えない部屋は造れませんか」とあきれかたてています。同窓生のキレイ好きな片付け魔のご夫人方にはゾットするようなお話を最後に筆を擱きます

耐酸・耐蝕 鉛加工・鉛工事一般

日本 滲鉛工業株式会社

会長 大久保 鹿 氏 (大正12年卒)

大阪市東淀川区木川西ノ町六丁目五

電話 大阪 (392) 1 1 5 1 (代表)

余話 緑丘

比島作戦と河島兵団 戦記を友情出版

「比島作戦と河島兵団」——老将校がまのあたり見たフィリピン作戦。復員後忘れないうちに幾多の将兵の尊い血を流した河島兵団の模様をフィリピンで散った戦友の遺族のため、また後世のために残そうとつづった戦記が、このほど旧中学時代の友人の手によって友情出版された。

22頁で新刊紹介した東口環氏(大一一三)のことが三月三日毎日新聞(北海道道南版)に紹介された。以下は同紙記事による。

筆者は函館市弥生町二一の七、会社員、東口環さん(六六)。東口さんは石川県江沼郡南郷村(現在加賀市)生まれ。大正十年、石川県立小松中学校卒業後、小樽商大(現小樽商大)に進み、同十三年同校を卒業した。北海道石油販売会社(小樽)



克明に印した体験 劣作に感激旧友が

に勤務中の昭和十九年六月、召集令状を受け、会津若松市の竹内混成大隊第四中隊に入隊、二週間足らずで門司を出港、比島作戦に参加した。その時、東口さんは一年志願(昭和十三年)の老少尉で実戦を知らない小隊長だった。 出発早々、輸送船「日蘭丸」が轟沈、八時間も漂流した体験。それに老少尉ということと兵団の参謀部員となつたため、当時の河島兵団の全作戦が手にとるようになり、河島修兵団長(三十六年八月、東京で病死)とも面識があつた。それに兵団の降伏、捕虜収容所内の出来事など。昭和二十年十一月三十日、二千三百人の輸送指揮官(この時は中尉に昇進)として復員するまでのわずか一年半とはいへ、フィリピンでの東口さんの人生は波乱に富んだものであり「生と死」をみつめた貴重な体験だった。

東京・大阪で個展を計画

洋画家 尾形圭介君 (昭三四)



来春渡仏を目ざして油絵の制作に打ち込んでいる尾形圭介君はその資金カンパのため今秋、東京・文春画廊や大阪で個展を開催するため、その事前打合せで緑丘編集部を訪問した。 四十八号で紹介した通り「緑丘」の表紙絵を一年間描く事をすすんで申入れがあつた。 彼は山形鶴岡市の生れ、昭和三

フランス語の松尾先生 停年退官 文集刊行の企画すすむ

松尾正路先生はいよいよ三月をもって停年退官となった。約四〇年にわたる母校仏蘭西語教授として沢山の学生に親まれた「マッツアン」である。

昭和四年四月、フランス語講師として高橋益実のあとを受けて教壇に立ったのはじめてである。小樽商大は外語学校に匹敵するといわれるほどの盛況を見せた時代の一人であり、人生の半ばを小樽で過した先生は口数は少ないが何時も母校の将来を人一倍心配している。小樽商大に大学院を一日も早く設置したいと望んでいるのは唯この人一人かといいたい。

人におもねる事が大きい。初対面の人には愛想がないので兎角誤解を招き易い、頭髪にヘアース

イル、ポマードのたぐいをつけたのを見た事もなく野人いや禪坊主に似た所がある。それだけに静かな対話には寸鉄人をさすものがあり、話している中に心あたまるものを感じる。 冬は山でスキー、春夏秋冬は山野を散歩して野草のデッサンに打ち込む。随筆は余り目立たぬ所で発表されてきた。(たとえば放送機関誌など) 今回いろいろの機会に書かれた随筆を一書にまとめ退官記念に発行しようとする友人が着々と準備をすすめている。

会費一口一、〇〇〇円 B6判 約三二〇頁 この紙上に更めて具体案を発表する予定であるが先生は宣伝がましい事はやめてくれと釘をさした。

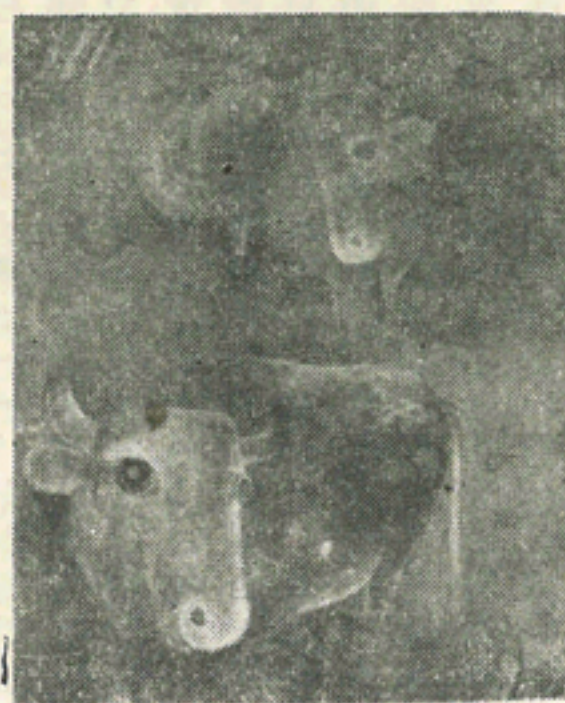
六月月もかかって原稿用紙に書きつづつた。東口さんの戦記執筆の記事が三十五年、毎日新聞紙上に掲載されたところ当時、フィリピンで戦死した将兵の遺族から、夫、子供、兄弟の模様を知らせてほしいという照会の手紙が多数、東口さんのもとに寄せられた。東口さんは「いまはなき将兵のためにも、比島作戦を社会に報告するのが義務」と、これら遺族からの手紙に力づけられ、それから五年間かかって、地図などもつけ、三回にわたって原稿を整理した。

忙しい会社勤めの身、その努力は大変なものだった。そしてたまたま昨年秋、小松中学校のクラス会に出席した際、同窓生の川良雄さん(石川県議会史編集室勤務)が東口さんの従軍記のあることを聞き、その後ずつしりと重い「比島作戦と河島兵団」の原稿を見て感激、東口さんに出版をすすめ、川さんも忙しい中を原稿の校正を引き受け、今度の発刊となったもの。

本はB6判、百八十五ページの謄写印刷ながら、川さんがその「あとがき」に「文筆を業としていた人々のものとした戦記と比較すると確かに文章は洗練されたものではない。しかし、応召した老中尉が記憶をたどつて克明に書きしるしたこの手記は文章の良否を超越して、一読した私の胸を強く打つものがあつた。全体を通じてうかがわれるのは、著者の部下に対する親愛感と人情味とである」と結んでいる。

この友情の戦記「比島作戦と河島兵団」の出版を知り、今度は緑丘会年小樽商大卒業、その年二紀展に初入選、四〇年二紀会賞受賞、四一年銀座・文春画廊、四二年札幌・富貴堂ギャラリーで夫々個展を行つて来た。

大阪では靱画廊(東区備後町二ノ五〇森田ビル地階)古谷主人は緑丘編集部の手入れを心よく引受け同画廊に彼の作品を常設展示する事となつた。緑丘人の同画廊訪問を期待する。尚塚画廊(堺市中央安井町山口ビル)川口主人も同様喜んで引受ける旨を伝えて来た。尾形君は今までの作品集をパンフレットとして出版する計画もすすめている。



緑丘通信

☆越崎宗一氏(大一一)はNHKラジオ(全国放送)「朝起き鳥」で二月五日、六日の両日、早朝五時〇五分から開道百年に關係して義経号、弁慶号、静号などの機関車物語など面白く聞かせてくれた。続いて二月二十五日は北海道タイムス「北海道風土記」一頁全通して小樽発展の歴史をニシンからはじめて商都としての発展史や高商設置、小樽出身の文化人にまで及んで執筆している。

(小樽商大の同窓会)の函館支部をはじめ、全国各地の同会支部で購読申込みを引受けるなど、友情の戦記は友情購読へと広がっている。 東口さんは「同窓生のみならず、恩師や先輩の方々のご指導とご支援で、しろうとの私がかんた立派な本を出版でき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。もしフィリピンで戦死した遺族の方などで当時の模様を知りたいと思っておられたら、遠慮なく連絡してほしいと思います。私の知っている限り、正確にお知らせして、英霊をお慰めしたい」と話している。

緑丘通信

☆京都大学七十年史(一二七〇頁)が発刊された。経営学原理講座の項には山本安次郎氏(昭二一)本年三月(退官)の事に言及し次の様に述べられている。

「山本の講義はその著「経営学本質論」(昭三六)と「経営学要論」(昭三九)をテキストに、時事問題の解説をもつて補完とするものである。その内容は(1)経営史と経営学史を媒介とする経営学の性質と体系(2)現代経営の構造と道程、組織と管理(3)現代経営の目的と成果の解明である」

☆母校岡本理一教授(商学士・配給論・商業概論担当)は昭和十四年講師として赴任してより翌年教授、今回二十九年の緑丘生活に別れを告げて札幌大学の経営学講座の主任教授となった。

料理 鍋 名物 鍋 成吉思汗焼

本店大阪・梅田 TEL (341) 3381 北 大使館 梅田・安田信託ビル TEL (312) 9151 南 大使館 南・法善寺前本通 TEL (211) 7248 神戸大使館 三宮・生田筋 TEL (39) 3656

IM ニュー ミュンヘン

まんびつ五人集

次回

大松大陸福

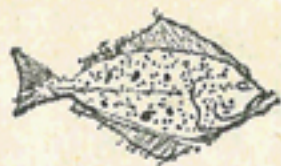
山岡	不二太郎(大七)
田橋	俊一(大一一)
田橋	清(昭二)
政啓	男(昭一八)
治	(昭一二)

五七会

苦小牧・小樽

草野義一

(東京支部)



私共は大正七年三月の卒業、同年度の卒業は第五回だったので、この回数と年号を結びつけてクラス会の名を五七会と称しているが、時々誘い合

って懇親会を催している。今年の春は丁度卒業五十年に当るので、一つ盛大に祝わおうじゃないか、それも陽春五月頃がよからうと、東京、北海道、関西方面の仲間の間でよく話が出ていた。年令からいけば若いといっても七十才、普通七十一、二才というところで、昔の言葉でいえば、古稀を越えた者ばかりで、近頃はいくらか長命になったといつても、世話役の調へによると、卒業当時九十四人いたのに今は半分以上死亡し、生存者は四十三人になっていて、中には身体が弱って気の毒な人もいるし、心細い感じがしているのである。居住地別に見ると東京が一番多くて十六人、北海

道八人、東北地方五人、関西方面五人、其の他九人となっていて、中には生きていたとはいっても外出も出来ぬ程弱ったものもあって、多分二十人位は来るだろうとの推測である。何処に集るかという話も繰り返りし出るのであるが、昔の思い出の小樽が一番よいという事は一応誰も異存はないのだが、いろいろの事情もあり、又各方面の希望を取り入れて結局東京がよからうとの話で大体その様にまとまりそうな形勢である。

東京の五七会は会員の都合によつては、二日づれる事もあるが毎月大休五プラス七の十二日という事になっていて、場所は私の関係している銀座日経ビルのレストランで一杯やりながら昔話や、身辺の事、同僚の消息などを話し合つて夕食を共にすこす習わしであるが常連は十人位、年のせいで他地方居住の同窓にも会い度いものだとよく話が出るが滅多に現れない。たまに山形の大山不二太郎君が来る位のものである。

次に私個人の話になるが、私の関係している日本軽金属が、今度北海道苦小牧に新工場を建設する事になったので今月初め見に行つたが、北海道への旅は十年振りだった。苦小

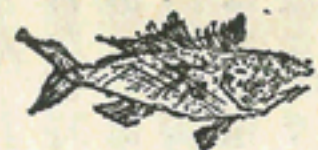
牧海岸は太平洋の大きな浪がぶつかるところで築港は無理だ、百億円も二百億もの大金をかける事は海に投げ棄てるようなものだ、という反対意見があつた事は何かの週刊誌でも読んだ事があつたが、今来て見て既に立派な港が完成しているのびつくりした。当初の話を思い出して驚いたのである。土木技術の進歩もあろうが先駆者の卓見には更めて敬意を表せざるを得なかつた。又北海道は雪もあり寒い、大工業には向かぬと考へ勝であるがこれもどうかと思ふ。というのはアメリカの自動車産業、化学工業等の中心地シカゴ、デトロイトからニューヨークの線あたりも随分寒いし雪も多い、今詳しく地図を調べて見た訳ではないが緯度は北海道と余り変らないだろう。ヨーロッパの独乙、イギリスあたりはもっと寒いかも知れん、恐らく緯度も大体同じ位だろう。それより北の方だつて盛んに工業も進み、何の仕事にも支障なくやつてる立派な国がいくらもある。

苦小牧の周囲を少し歩いて見たが積雪も極く僅かで近くのアイヌ部落のある白老あたりには全く雪がなかつた。兎に角あの辺一帯茫漠たる日高平野が東に向つて展開している訳

身辺雑記

中瀬秀一

(東京支部)



兎角人生に波風があるのは当然乍ら素健康自慢の小生にとつて昨年は年廻りが悪かつたというか更年期症状とでもいうのか、色々故障があつ

た。一月、二月は膝関節の神経痛で痛い目にあい、六月中旬から七月にかけては下痢に悩まされて四キロも体重が減り、おまけに七月下旬から八月一杯は「スモン病」という痛くもかゆくもないがフラフラして歩けなくなる変な病気で入院した。併しいづれの場合でも別段生命の危険はなかつたので、自分の感じとして入院する程のものなからうと思つたが、此辺で休養するのも大事と考へて少し長い人間ドック入りと

学生出身地別を見ると、道産子六割、内地人四割で学校の空気も平穩で皆よく勉学に励んでいる事など承つて安心した。学長は私共より九年あとの卒業であるが、御承知の様な篤学の士で、母校の為に懸命に居る事が話のしはしはから想像された。立派な先生である。僅か二日二晩の短い旅行だったがほんとうに愉快だった。

次は山形天童市の大山不二太郎君にお渡しします。宜しくお願ひします。(大七 日本軽金属株式会社会長)

此の入院の期間中クラスメイトや他の方々に色々御心配をかけた。中でも三十数年前第一銀行時代に僕の課長だつた本年八十一才の山田謙二老が態々病院に見舞つて下された。そればかりでなく、今日自分は庭の草取りをしているとか、或は午後は友人が尋ねて来るとか、時には新聞のトピック等を、毛筆書で一日も欠かさずに見舞の葉書を下さつた。此の御親切には全く打たれた。

かくつて来たので此の調子で恢復してくればいいかと念じて居る。こうして気分がよくなつて来ると永らく発声や節廻しに苦勞を重ねて居た歌沢も段々と理解が深まり調子が出だした。二月二十一日国立小劇場で師匠歌沢宗家土佐芝金の喜寿祝賀演奏大会が催されるが、先輩の上村甚四郎氏同期の三沢秀雄君と三人出演するので目下猛練習中である。

昭和二年卒業一緒の助さん(小西征夫君の愛称)からの指名とあつて嬉しいことながら筆を持つのに戸惑つた次第。古いことだが、大正十四年の秋と思うが小西君、鳴滝君たちの熱心な提唱でラグビーを始めることになった。当時北海道内では北大がチームの結成と練習に一日の長があり、他にこのスポーツをやつて居ることは聞かなかつた。



それがだけに当初は色々苦勞はあつたが、好きな人達の集りと部の創設という意気、それに加へて相手は北大予科という対抗意識もあつて練習は極めて熱心でしかも真剣苛烈なものがあつた。

冬、花園グラウンドで雪まみれの練習で冷たさのためボールが手につかなくなつた事もあり、春校舎の前庭で漸く綺麗に伸びた緑の芝生を散々スパイクで痛めつけたり多分に乱暴なこともあつた。

校庭での練習後、小樽の町より旬日以上も後れて絢爛と花をつける八重桜の木の下で小樽の町を見下しながら、お互い遠慮なく勝手なことを

ラグビーの思い出

矢野健太郎

(釧路支部)

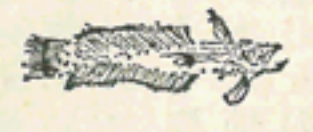
まんびつ五人集

語り合った若い時の面々が今尚彷彿とする、丁度校舎から出て来られた亡き伴校長先生から激励のお言葉を頂き一緒に写真に入っていたのだと思ふこともあった。亡くなられた方でもい出されるのは当時角力の勇将シャムさんこと皆川進君で、彼もフォアワードは重量があり力量があり足も早くなければ駄目だ、俺もやろうと一時練習に加はったこともあったが間もなくして辞めた。皆川君は拓殖銀行に就職して札幌本店に勤務してたが、私も当時札幌に居たので土曜日など時々合つて杯を交したことがある。ある時彼の指先が赤インクで汚れて居たことがあった。彼曰く俺は染物屋で稼いで居るのではないがなと何々大笑して居た。明朗で闊達な人であったが良い人が早く亡くなられ残念に思われる。

回想

一柳悦蔵 (東京支部)

さて話が横へされたが、北大とのラグビー第一回は花園グラウンドで行った。台風の雨がりの泥んこで処々に水溜さえ残つて居りボールが浮かぶような有様で両軍の選手いづれもドブ鼠のような恰好で奮戦したものだ。観衆の中に労働者風の数人が一とかたまりになつて観戦して居り、タックルやヘルドをやつて選手が転倒すると歓声を挙げ拍手して弥次を飛ばして居つたが、これが高商、北大予科戦と知つたのだらう、いつの間にか高商軍への声援に変わり、声を揃えて応援して呉れたのは楽しいことであつた。

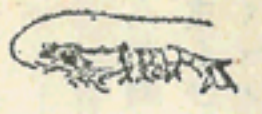


グビー界のナンバーワンであつた慶大選手を夏の休暇を利用して招へいし、高商軍も北大の寮に合宿して北大選手と共に合同コーチを受けてお互いに研さんしたこともあった。ただ残念なことは数度の対北大予科戦に勝星を挙げ得なかつたことである。漫然とまことにまとまりの無いことを筆を措きます。次は昭和二年卒陸田清氏にお願い致します。(昭二)

おもいで

加藤 勇 (小樽支部)

岡田春夫兄からの御指名とあればやむなく筆をとることとなつた次第ですが、実は私年来の怠慢がたつたので、昨年これまで経営して来た零細企業の会社二つ共倒産の浮目に合ひ多くの人々に迷惑をかけ、又御心配をかけた矢先きに、同期の三十周年の全国大会が地元小樽で開かれたのであつた。



私共小樽在住者は札幌と共同で準備の大役を引受けたのだが、前記の事情で私は殆んどお手伝い出来ず、新海、岡田、本間の諸兄に小樽の役割をしていただいたことを、今もって誠に申訳なく思つて居る次第です。同期の大会のことは、前号迄にも詳細に幾人かの同期の諸兄の記事で尽されて居るので、私は岡田春夫兄との今日までの想い出を書いて責めをふさぎたいと思う。彼とは南先生のゼミで一緒だったが、仲々の勉強家であつた(当時左の方ではあつたらしい)然し卒業論文を出さずに卒業したのは、南ゼミでは彼一人であつたと記憶している。彼の初回道選には南先生のお供で美明まで行ったこともあり、戦後第一回の衆議院選挙は全道一区?で恩師苦米地先生も初めての御出馬というので、これには私も困つた立場だつたが、岡田兄を連れて苦米地先生のお宅に参り、岡田兄が先生と

- 苦米地校長の入学式での御訓話の諸君を遇するに青年紳士を以てす。は生意氣盛りの小僧共には忽ち胸白共は一向に紳士らしくならず、違ふ立場で立候補することを挨拶され、先生から政治では自分が後輩だからよろしくというような御挨拶があり、私は同期として岡田兄を応援したのであつたが、幸いお二人とも当選されたのでやれやと思つた。その第一回当選のとき、幾人かの同期の者が美明の岡田兄宅におしかけたものであつた。何年か忘れてたが母校昇格問題がまだ聞かれなかつたとき、岡田、浜中の両兄が小樽に来られ、三人で学校に出かけ、先生方に大学昇格を力説された岡田兄を今でも想ひ出すのである。昨年の大会も、岡田兄の音頭で実現したものと思うが、彼は何か人をまとめる術に長けて居るところがあるように思う。私事で申訳ありませんが、私の身辺も金栄、金吉両先輩、同期の新海、岡田(一次)両兄初め、周囲の皆様の御援助で次第に落着いて参りましたことを感謝して居ります。次回は卒業後大阪で一緒に勤めた栃木県福田政治兄にお願い致します。(昭二) 加藤建材工業社長) まんびつ執筆年次ベスト5 昭二がトップ 先輩・同輩・後輩に執筆バトン渡して昭和三十三年から今日まで続けて参りました。何年の年次がベスト5に入つたでしょう。 第一位 二十七名 昭和一二年 第二位 二十六名 昭和一一年 第三位 二十四名 昭和一四年 第四位 十九名 昭和二年 第五位 十三名 大正一二年

- 作業班の連中が丹誠して作つたカボチャを夜陰に乗じて失敬しては暗の居柄裡にかけて漫談の花を咲かせたものだ。 昨秋永眠なさつた糸魚川先生には寮監として二年間何彼につけてお世話になつた。よく先生のお宅に伺つては御家族ぐるみの御厚意に甘えたものである。その頃は北斗寮にいて前号の松波君、七戸君等と共に大いに暴れ廻つた。春四月新入生として小樽駅頭に降り立つた時、先輩の異様な歓迎に下胆を抜かれたのは私だけではなかつたらしい。よれよれの羽織に薄汚れた長い紐を首から廻し朴歯の下駄に破れ帽子、手に持った緑の寮旗、これが寮生の晴着だつた。真夜中の裸のストーム、対寮マツチ、試胆会、ハイキング、対予科戦等。戦時中とはいへ直営に行けばまだビールはあつたし、寮祭には酒も集つた。いつも誰かが校歌高吟していた。 小樽はいいところだつた。美しい自然と、すぐれた先生方と、いい友達がある。いまバンクーバーに居る西村君が卒業近いある日、述懐して「俺達が、いま此処に一緒に居るといふことに意義がある」と言つていたのを思い出す。長い一生の中で一番多感な時期に、まだ人の世の垢に染まぬ若者が一つの坩堝の中で融け合つた三年間は誠に貴重な時間であつたと思う。 当然のことながら卒業後は皆それぞれ道を歩いている。生活の環境も違つて居る。私は二十年來青物屋

まんびつ執筆者

- (客員) 松尾教授 (大八) 高橋徹男、下吹越栄吉 (大六) 八木康之助 (大七) 伊東小四郎 (大七) 白瀬治三郎、金栄西吉、草野義一 (大八) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三 (大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直 (大一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重、越崎宗一、大泉行雄、中田新平、中瀬秀一 (大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿式、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎 (大一一三) 古関周蔵 (大一一四) 畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎 (大一一五) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善梧、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光 (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男、茂垣英夫、岩岡秀三、小西征夫、矢野健太郎 (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎 (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三 (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助 (昭七) 八家要、鹿島景策 (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七 (昭九) 梅野弥太郎、塚越誠、本田正一 (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘 (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、柴竹亜津視、秋葉隆一郎、藪目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷榮作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正 (昭一二) 内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白鷺良造、曾根重四郎、大井健一、梅原音次、森川正明、岡田春夫、加藤勇 (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松野野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫、西谷作太郎、森川正明 (昭一四) 井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、菅坂雄、河西辰男、沢村重

- 一、石黒政夫、北条恒一、三浦正飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信
- (昭一五) 柿本恒一
- (昭一六) 相原正美、相田正、河上鎮男
- (昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
- (昭一七) 穀谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭一八) 亀井尚一、湊誠、島田恵治、田森誠一郎、七戸真次、松沢久隆、一柳悦蔵
- (昭一九) 高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
- (昭二二) 牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
- (昭二五) 我満博仁
- (昭二九) 古内一成
- (昭三〇) 石津洋三
- (昭三一) 小田島和夫
- (昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭三六) 神田隆志

「緑丘」43年度申込者氏名 (二)

(三月三十一日現在)

- (あ) 安在七郎、穴釜升夫、青木鎮夫、青田滝蔵、浅田厚、阿部保、青木匡光、荒田清司
- (い) 市橋宏一郎、一柳悦蔵、岩崎政市、石川一、泉安治、石部敏雄、稲垣芳雄、伊賀喜三、石田平八、井出富太郎、井上了介、猪股貫一、今西信之、五十嵐良一、井瀨幹夫、今井健一、石津洋三、今井徳弥、池田宜弥、池田昇一、糸魚川伍郎、一瀬義三郎、五十嵐晃
- (う) 梅原音二、馬林進
- (え) 江田三喜男
- (お) 大崎敏夫、太田英治、奥出博、大河内誠一、小沢松次郎、奥田直、越智直行、岡田一次、岡田良太郎、太田正幸、大塚武雄、大久保鹿次、大場寅太郎、大竹政雄、大田宮吉、大野晴史、岡島紀四郎、岡田政次郎
- (か) 亀井裕、鎌田隆、河西辰男、加藤一幸、河合邦吉、香川清夫、柿崎公治、加藤昌市、加納光、川島道雄、神沢重治、加藤利雄、河上鎮男、鎌谷勤、柄沢六郎、菅野祐治、金栄西吉
- (き) 北住卓二、木村慶七、木村吉三郎、木村政則、喜多村久盛
- (く) 鞍掛駿郎、功刀素重、桑田喜久男、久保吉幸、朽木尚孝、黒坂邦男、国安猛司、黒田勲、草野義一
- (け) 初物二三男
- (こ) 小橋庸三、後藤栄一郎、小島憲市、五味新造、小山俊勝、小柴嘉雄、近藤弘平、小林正雄、後藤秀雄
- (さ) 雀部秀吉、沢木源治郎、佐藤武市、佐藤信雄、酒井誠、佐藤正夫、佐々木嘉夫、佐野稔、桜庭康次、齋藤利一、桜庭雅樹、佐々木七郎
- (し) 白瀬治三郎、下吹越栄吉、篠原守、進藤真一、塩田信男、白井孝一、清水淳、白勢慶吉、渋川陽一郎
- (す) 杉山昌作、杉下稔、杉山力、杉江猛、鈴木信、角江重保
- (た) 高橋正敬、田中正三、谷本朋次、龍沢中、竹村蔚、高木重信、高島源一郎、武内守次、高山貞一、只野重太郎、多賀寿、田中弘康、竹島篤二郎
- (つ) 堤逸雄、常岡亮
- (と) 苔米地英彦、戸谷太通三、土井善雄、友沢和一郎
- (な) 中田新平、長井彰、中川憲三、内藤義信、中園武雄、仲谷石多郎、長津行高、中村統一、中津正之
- (に) 西川正己、西野嘉一郎、西村百太郎、錦戸善一郎、西山正夫
- (ね) 根本北郎
- (の) 野中雅夫、野田政秋、野村信一、野口直吉、能代鉄雄、野中正夫、野沢正一
- (は) 芳賀厚、浜浦英祐、萩原栄、早川延治、長谷川旭、長谷川逸郎、服部兵吾、林寅男、半間清介、畑信太郎
- (ひ) 広瀬哲郎、広田力一、広川博久、平田英彦、東霞時雄、平賀泰正、平野治助
- (ふ) 古川敬止、藤沢静雄、藤野戸憲也
- (ほ) 本間英作、本間慶輔、堀清市
- (ま) 松本迪夫、松本要一、牧田恒雄、松本浩三郎、松本義一、松村克己、松浦文太郎、丸山亮、松井勲
- (み) 三浦儀三郎、湊富美男、宮嶋巖、箕輪汎人、宮地邦介、三國智造、湊静男
- (む) 室谷邦雄、村木真三、村田久夫、村山重三郎
- (も) 森松定男、毛利治泰、茂垣英夫、森定治、森隆郎、森秀和
- (や) 山口重男、山口保栄、山家利典、八木繁
- (よ) 吉田莊太郎、吉住稔、吉田博、吉川友記
- (わ) 渡辺祥吉、若林周五郎、渡辺泰助
- (り) 緑丘会東京支部、緑丘会札幌支部

△お願いします▽
まんびつ執筆者よ
バトンを受けたら責任の回避をやめ
ましょう。バトンを渡した方は次の
方へ執筆するようすゝめて下さい。
若しその方が困難な場合は執筆者交
更をすぐ編集部へ連絡願います。

緑丘会東京支部新年懇親会

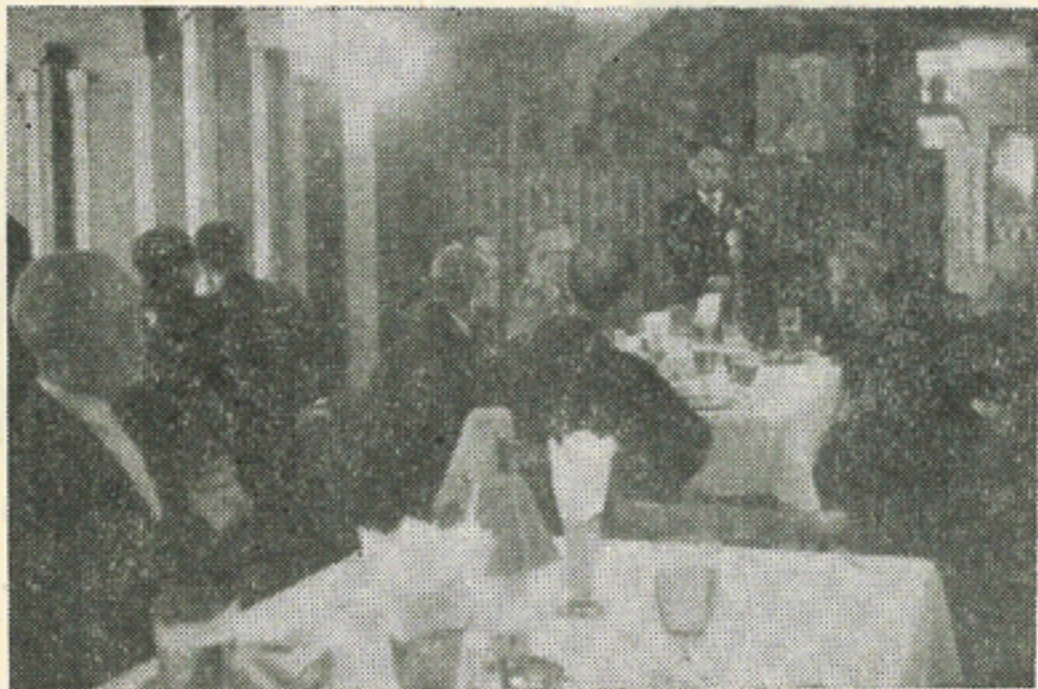
サッポロビール二階
一月十三日(土)午後一時半

折悪しく小雨の降る銀座で(サッポロビール二階)恒例の新年パーティーが開催された。本日の出席予定が悪く、百名を切った事は遺憾であった。
定刻一時半を過ぎた頃から東京支部武岡幹事長の司会で上村支部長の開会のあいさつにはじまり乾杯に入る。次いで佐々木理事長は「緑丘会の母校に対する援助はまだまだ充分とはいえない。差し当り本部をはじめ東京、札幌、京阪神支部の確立を

三年計兩位で充実したい。今年には経済界も容易ならざる事態を予測されるがこのような事は何時でも年頭に當っていわれる事であり、楽観的な観測の出た例がない。とはいっても自分の経験からいうならば勇気をもって当ればこの困難も乗り切る事ができるであろう。国際的に見ても日本は非常にいい環境にあるので一層の勇気を振って予想される難局を乗り切っていただきたい。どうぞ緑丘人の御多幸をお祈りします」と結



熱のこもった大野元学長の挨拶



加茂前学長挨拶

実方学長、大野初代学長、加茂前学長三人の学長が顔を揃える会合はやはり東京ならではという感を深くした。実方学長からは母校就任に対する悲壮な決意をこども発表され粉骨碎身のそれをささえるバック・ボーンは母校出身者第一号法学博士である事もその一つであると洩らされた。
大野初代学長は昨年とは打って変わった元気なハリのある声でおめでとくと第一声。(目には眼帯あり)「後に続く加茂学長は母校の施設に尽力され、実方学長は夫れにすじ金を入れていただいている。まさに磐石のそなえありでみなさん安心して下さい」という。

戦歿学生の像建設については得難い美事であると賞讃、そして学長自身の忠告に送ってくれた生徒が入れ替って戦場に向って征かれ、次々戦死していったが同僚の戦死を考えると思無量であると昭和十七、八、九年の思い出を語る。ハイデルベルヒその他海外で見た戦歿学生の碑の思い出を語り特に母子像の彫刻に戦を避けた母の顔そのおもぎしの印象的な姿を先生の言葉の中に再現し、「百べんの言葉よりも戦を避けねばならぬ」という事を見る人をして感ぜしめる像を作り、是非この学を成功させてほしい」と挨拶された。

加茂学長は今尚小樽在勤当時の青年の訪問を受けて学長夫人が青年のお相手をしている。これは小樽式なお世話というのであるが、夫れら青年達はもう一度小樽に戻ってくれという声しきりであるという。これ

は学長夫妻の人柄と辺境の地に真心を打ち込んだ数年の母校再建努力に對する一つの現われでもある。実方学長に招かれて建設が進む母校を見て来た報告。意匠はよくてもその内容の充実これから実方学長に重荷がかかって来るがさきに決意を洩らされた実方学長のことばで一つのゆるぎも見せないであろう。世界平和のため東奔西走で席のあたたまるヒマもない先生は「迷われない心配のない日本を造りたい」と結ぶ。

上京中の松尾教授に戦歿学生碑のことについてマイクが廻った。戦歿学生平和記念碑については大野先生のおことばでこれ以上申し上げることはありません。自分は近く退官するが戦中学徒出陣の時居った教授も私唯一人だけが残っているだけであって、是非ともこの企画を丘を去っても実現する事を決して中止はしない。このために緑丘会の人々の御支援を特にお願ひします。と挨拶された。

「緑丘」編集部住所変更

今般都合により「緑丘」編集部住所を変更いたしましたので御承知願ひします。
封筒など今まで使用の残数を使用しますが成る可く通信は左記宛をお願いします。
兵庫県西宮市清水町一六一六
藁目英三方「緑丘編集部」宛

らず、目的を達しないのである。やはり東京支部の会合が全国の緑丘会の見本であるから毎年変わった色々の企画を考えて見たらどうであろう。そのためこの様な会合のお世話を昭和生れに企画させて見てはどうであろう。昭和元年生れは今年で四十二才である。

ビール三杯とは一応ホロ酔いもよい所である。場所を変えてもう一杯という所そんな時間であった。さあこれから若い卒業生の歌でも出るかと思つたのは田舎者のあさはかさか。『緑丘会万才』がはじまつておひらきとなった。



緑丘会東京支部万才

大阪支部新年懇親パーティー

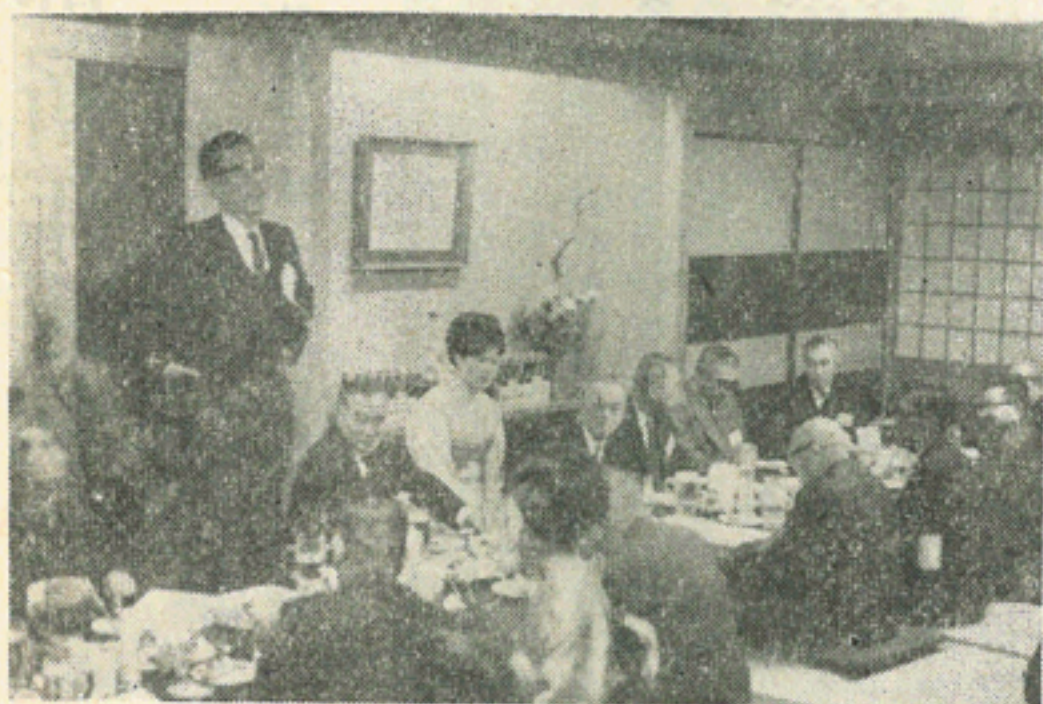
一月一日 北大使館

四十二年緑丘会新年懇親パーティーと十日会を兼ねて、午後六時から北大使館で開かれた。

母校から実方正雄学長や京都産業大学教授小林象三先生も態々京都か



小林先生



実方正雄学長の挨拶

ら足を運ばれて三十数名の緑丘人が一堂に会した。

石田大阪支部長より両先生をお迎えし、ここに緑丘人一同と新しい年を迎える喜びの挨拶があり乾杯に入った。

司会者若山幹事長から学長に母校の近況をうかがう。学長立って母校の新建築の進捗状況や卒業生としての学長の変わらぬ母校育成の決意を述べられた。次いで小林象三先生は先生個人の最近の活躍振りを御披露いただきと同時に歴代校長への小林流称号を力をこめて披露された。

クラブサッポロから五人のホステスがサーブに現われ、新年にふさわしいなごやかな雰囲気各テーブルからの笑いではじまった。

墓目副支部長は緑丘編集長の立場から『手塚寿郎先生と追憶』二〇〇部限定出版とその申込状況について発表すればその場でこんな立派な本だとは知らなかったと忽ち数冊の申込があり、続いて緑丘戦歿慰霊碑について募金の方法は支部単位か年次単位かについて幹事長の意向を伝える。司会者から山内孝氏(昭和一六後) 剣物資郎氏(昭三〇)の二人が呼び上げられて中央にまかりでる。

この二人は年男申年生れであり、各々今年の抱負とお得意の歌を披露せよとの事で元氣よく唄う。二人は仲良くはげましながら握手を交わして

ンについては其後札幌で松尾教授と会ってほぼそのデザインナーがデザインを試みるという献身的な方向に動いていてとの情報が入った事を洩らされた。募金については振込用紙が来るまでしばらく待っていた方がよからう。その振込用紙によって年次別、支部別の金額が出て来るようになっていたからその時はすぐ申込んでいた方がいい。

「募金目標額の如何にかかわらず、心ある人々によって献金さるべきである。同期の人々が我々の身がわりになって日本を守ってくれたのであるからその人(戦死者)に対し金額の如何にかかわらず心からの冥福を祈る気持があるならば一口二千元といわずたとえ壱千円でも、自分の戦死者に対する気持の現われとして献金すべきである。葬儀の香典と同じでいくら集まるかという目標にこだわる必要はないではないか。たとえ合計二百万円であろうとも三百万であらうともその集った浄財で出来るだけの事をすべきでないか」と大塚武雄氏(大一一五)から発言があった。

尚、この例会に於てタンデリール(消炎剤)事件の経過報告があり、現物を提示して副作用の大なる事と高血圧患者、血管の弱い人々は医師のすすめによつても注意服用の話を話した。

尚この事件は三月十九日付朝日新聞「声」欄に発表され全国に伝わり、三月二十三日の同紙上にその反響が報道された。緑丘人は一読を乞うと。

着席。ビールは制限なしの飲み放題という事でホステスもサッポロビールの売上げに協力を惜しまない。

大阪支部は副支部長(滝沢中氏の東京転出)一名欠員のため、この機会にその候補者として樋山三郎氏を推す事に満場一致拍手をもって決議した。

もう九時も近くなり、本日の最年長者竹井虎男氏(六七)の乾杯と校歌、行進歌を唄って新年パーティーの幕を閉じた。帰りにはサッポロビールから心づくしのお土産(新発売品)ファイブスター半ダース入カートン一ケース宛出席者全員に渡され楽しく家路についた。

(出席者)

- 実方正雄学長
- 小林象三先生
- 竹井 虎男(大七)
- 宮地 邦介(大一一)
- 大久保鹿式(大一一)
- 田中弥三郎(大一一)
- 大竹 政雄(大一一)
- 天野 雅司(大一一)
- 石田 平八(昭二)
- 渡辺 祥吉(昭二)
- 樋山 三郎(昭三)
- 三浦儀三郎(昭三)
- 門田 彦士(昭三)
- 田代 耕二(昭三)
- 大村 博(昭三)
- 藤井 幸男(昭三)
- 紀野 重仁(昭三)
- 北村 弘(昭三)
- 墓目 英三(昭三)
- 小池 輝男(昭三)
- 田口 俊夫(昭三)
- 横本 昌直(昭三)

- 岡部 武雄(昭一三)
- 若山永太郎(昭一三)
- 市橋宏一郎(昭一四)
- 高田 裕己(昭一五)
- 亀山 英夫(昭一六)
- 山内 孝(昭一六後)
- 林岸喜次郎(昭一八)
- 田中 克己(昭二六)
- 剣物 資郎(昭三〇)
- 安部 盛之(昭三一)
- 武田 知之(昭三三)
- 角 响(昭三四)
- 竹内 晃(昭四一)
- 山崎 敏一(昭四一)
- 御厨 敏雄(昭四二)



大阪支部新年パーティーも終りに近づくと

大阪 緑丘十日会

二月度例会

二月の例会は特に議題を設けず開催された。

墓目副支部長より戦歿慰霊碑募金について東京支部新年パーティー後に開かれた会合の様子や、碑のデザイン



10日会の顔振れ



東 籬 倉 庫 株 式 会 社

本 社 大阪市北区中之島5丁目17番地
大阪支店 電話 大阪 (443) 8 7 3 1 (代表)

取締役会長 佐 藤 栄 治
相 談 役 堂 城 不 二 人

茨木支店 青森支店 東京営業所

緑丘福岡支部だより

二月の九州に於ける春寒は再度に亘る未曾有の降雪(福岡市20cm以上)となり「えびの地震」をも加えて凡ゆる面に甚大なる被害を生みました。三月に入り鹿児島では菜の花が盛りで密蜂業者が巣箱を据え付け、桜の花だよりも頻ります。

福岡支部では新年最初の懇親会を馬場支部長(昭三卒)の経営するアソコビル内の喫茶部で一月二十日(土曜)に開催しました。新顔としては今般大阪より熊本家庭裁判所長に栄転された江上芳雄氏(昭三卒)が元気なお顔を見せていただきました。参加者は13名でした。



特に本会合では坂本幹事より「緑丘戦没慰霊碑建立基金」に就いて協力方の懇請があり、取り敢えず当日の会費の一部を基金に充当する事に出席者全員の賛成を得た次第です。当日欠席の会員には書状を以って協力をお願いしました。

福岡支部は本部からは最も遠距離で昔は、津軽、関門と二つのチャネルを越えたのですが、近き将来着工中の青函トンネルが完成すれば、一、チャネルの陸つづきというわけです。北海道の発展は日本の躍進です。青函トンネルの無事故竣工の一日も早からんことを念じて居る次第です。

国際情勢では今年是我国経済の危機とさえ言われ特にドル基金の見透しは年度末20億ドルを割り17億ドル合に激減の公算必至でいよいよ赤ランプです。

貿易は不振で国内各業界の競争激化、倒産続出で「企業戦国時代」弱肉強食の様相です。斯かる時代にこそ当支部員をはじめ九州各地に活躍している緑丘マンの腕の見せどころで「小樽商才」「緑丘根性」を発揮して各自の企業に善処したい心構えです。

前列右より

- 江上(昭三) 桑田(昭四) 馬場(昭三)
- 木村(大十一) 後列右より
- 永井(昭三七) 平元(昭二九) 坂本(昭一六後) 久宮(昭一)

緑丘十三会

第四十四周年記念全国級会ご案内

拜啓 春寒の折柄各位にはご健勝のこととお慶び申し上げます。扱て、首題級会の件次の通り企画致しましたから万障お繰合せの上ご参加下さいますようご案内申し上げます。

今年はお承知の通り明治百年に当り、お五六十有余年の風雪を凌いで生き抜いた「明治男のつどい」も一層意義あることと存ぜられますのでお誘い合せ事情の許す限り多数のご参加を期待致しております。

- 一、とき 昭和四十三年四月十三日(土)午後一時 仙台駅正面入口・時計の下集合 マイクロバスにて青葉城跡(仙台市俯瞰) ↓塩釜神社 ↓乗船(松島回遊) ↓松島海岸(記念撮影) ↓瑞巖寺 白鷺楼、午後六時
- 一、ところ 松島海岸 白鷺楼 (TEL松島〇二二三〇五―二九) 宴会一泊 翌十四日(日) 午前十時・乾盃して散会
- 一、会費 金七、〇〇〇円
- (註) 右は最終決定と致しますからご高承の上折返しご返事下さる様お願い致します。尚、ご返信は十三会名簿補正の資料と致しますから出欠に拘らずお手数乍ら必ずご投函下さい。
- 昭和四十三年二月十五日 連絡先 仙台市旭町二丁目一〇番の二 電話五六―二六九一

幹事

- 佐藤 虎夫
- 古関 周蔵
- 伊部 修吾
- 中嶋 政次郎
- 山田 季郎
- 佐藤 虎夫

一八会の感激

林 昌次

同窓会と言っても、むしろ、会の大半は、戦没同窓慰霊の碑建設についての会議風な雰囲気であった。しかし、碑建設に対する熱心な討論のうちには、戦死した同窓の慰霊の真心と、戦争という生死の間をさまよひ、運よく生還でき、その後二十有余年生きてきた者の再会の感激というものが触れ合って、かつて、丘で、青春をぶっつけ合ったあの緑丘生活の熱っぽい友情が、二十五年を経た今日、短い一宵であったが、お互いの心の中に甦ったのであった。まして、松尾教授のお顔が加わったことで、その感銘は尚更であった。だが、この青春の甦りは、生きている者同志のためというより、日本のため死んで行った戦没学友へのひたすらなる捧りを捧げる緑丘精神の顕現であることを確信するものであった。

「丘と海と白い雲」をききつつ

高橋 洗至

「……丘の上から眺める海は、丁度今日の様に静かでした。夏の午後のひざしがこの大きな背の高いポプラの上半分に当って、真っ白な雲がじいっと動かず……」

仏語の松尾教授の声が淡々と流れる。北海道放送製作のテープ「丘と海と白い雲」である。じつと耳を傾

東京一八会便り

何時までも若い気でいたら昭和十八年卒とは即ちお互に四十五才前後となる。この年代は公的には社会の中堅として、こき使われ私的には伴や娘の大学受験という難問を目前に青息吐息の年代である。だから同期会がここ数年杜絶えていた言訳にはならぬが「おやち頭張れ」というわけで同志を集める可く腰を上げる。時恰も本年は卒業二十五周年に当り、また今なお胸に浮ぶ若くして散った同期の英霊の慰霊碑建立の募金



のためにも在京同期生を把握しなればならぬ破目に立至った次第です。かくて一月十一日、日本橋ぬまたに参集せるもの二十八名、折よく翌々十三日の緑丘東京支部へご出席のため上京された松尾教授と札幌同期生の竹山・小林の両君を加へ三十名を超す盛会となった。歓談するハゲ頭、白髪頭に二十五年の才月の流れは覆うべくもなく、心はポプラの丘に立ち白い雲と港の海に想いを馳せ興の尽きることなき楽しい一夕でした。

尚この会をもとに在京五十六名の名簿を完成致しました。他地在住同期生の方で名簿御希望の方あればお送り致しますので本誌をかりてお知らせ申上げます。(野中雅夫記)

緑丘一八会(昭和八年卒)

東京地区名簿出来上る

昭和十八年卒の東京地区の名簿が昭和四十三年二月現在で作成された。この名簿は同期の海外駐在者、東京より最近他地方へ転出者名簿も添えて、ゆっくりこの名簿をにらんでいると東京在住中の顔が浮び上る。なお海外駐在組は

バンクーバー(東京銀行) 西村 豊
 ニューヨーク(三井物産) 大塚直行
 ニューヨーク(三菱重工) 上田正直
 ナイロビー(東京銀行) 井上捨夫
 の四名である。

ける十八年卒一同の顔に二十年前の若々しい面影が重なる。

「今こうして丘の上に立っていますと、同じ様に此の土を踏み此の芝生に腰を下ろし、海を眺めていた学生達、戦場にはかなく散ったあの若者達の話や、身振りや……」

「緑丘とは何だ!」

突如として響く大音声……。昭和十年卒の林先輩だ。今日は松尾教授と共に到着された時既に大分御機嫌の様子だった。

「シッ。先輩、先輩、しばらく静かにして下さい」

「……ウム」しぶしぶ坐る。

緑丘とは? 伝統とは? 正気寮精神とは? 等々、毎日の様に唱えたりつかしい青春の一時に時の歯車が一瞬に逆転した。

松尾教授の声が続く。

「……しかし今私の心に浮んで来るのは……死んで返らない一人一人の学生の事です……」

戦死したと伝えられる一戸清志君の顔が浮ぶ。公報が入ったが最後を知っている者はいない。何時何処で何うなったか分らないという。肉親にとつてこんな悲惨な仕打があるだろうか。母君は悲しみの裡に先年他界された。

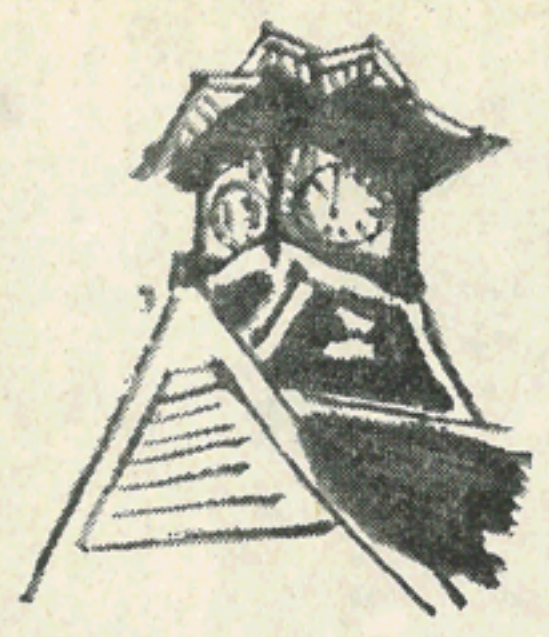
「……大きな船や小さな船が夫々違った目的、違った荷物を積んだり、卸したりしてあの港の中に並んでいます。あれが平和の姿でしょう。……と教授は結ばれた。

会合開始から三時間、談事白熱、云いたいことも話したい事もままにならぬ程、短かく感じられた。

札幌柿会

(昭和14年同期会)

日時 昭和43年2月9日
場所 札幌市北三条西二丁目
香港飯店



当日は幸いにも慰霊碑建立の準備に当っておられる松尾教授の御出席を得、昔交らぬユーモアあふる話術にてフランス留学当時の想い出話しが飛び出し楽しかった緑丘時代が昨日の様にしのばれました。

- 一、(同期生戦死者名簿の確認)同期生の戦死者中現在判明しているのは左記の方々ですがそれ以外の方でお判りの人がありましたら竹島篤二郎氏(札幌市北二条西四丁目三井ビル大阪商船三井船舶札幌支店)宛に至急お知らせ下さい。
- (氏名) 戦死年月日
- 青木和雄 (二十年五月二日)
 - 荒木謙次 (十八年九月二十日)
 - 花岡 実 (不明)
 - 伊藤一男 (二十年六月七日)
 - 河津雄二 (十六年五月二十三日)
 - 清岡良一 (二十年六月)
 - 小紙春道 (二十年六月十五日)
 - 大塚金恵 (不明)
 - 坂田 憲 (二十年七月)
 - 篠原 敬 (不明)
 - 関川益三郎 (不明)
 - 高坂憲司 (十八年五月二十九日)
 - 高橋 正 (十八年三月三日)
 - 多田武市 (十七年八月二十一日)
 - 対馬友弥 (二十年六月)
 - 米谷慎雄 (二十年七月十七日)
- 尚戦死年月日留守宅等御存知の方も御連絡下さい。
- 二、(緑丘会三十周年総会開催の件) 東京の幹事と連絡をとり明年東京近郊にて総会(全国大会)を開く当日の出席者
- 平野千太郎 (三井鉱山札幌支店)

- 車事務所
- 江木 慶雄 (江木商店)
 - 佐々木光雄 (ささ木商店)
 - 吉原 邦男 (栗林商会札幌支店)
 - 松田 栄一 (北星タクシー)
 - 佐藤勝太郎 (難波クリーニング工場)
 - 竹島篤二郎 (大阪商船三井船舶札幌支店)
 - 富江 孝一 (滋賀屋株式会社)
 - 木村 俊也 (シオノギ製薬札幌支店)
 - 宮崎 武彦 (ホクレン農業)
 - 岡田 英夫 (札幌トヨペット)
 - 吉田 和悦 (不二興業札幌営業所)
 - 加藤 政広 (三美製作所)
 - 松野 敏男 (小樽給油サービス)
 - 酒井 康正 (中島電気商会)
 - 高橋 信三 (高橋商会)
 - 島崎 茂 (佐々木テント工業)
 - 新保 精一 (栗林商会)
 - 松尾教授 (文責木村)

昭和一二二年の
暖かい友情に感謝して

久方ぶりに緑丘を手にしてなつかしい気持ちでした。私の拙い文章が堂々として何だか気恥かしい気持ちです。森川様の前文を読んで富誠に対する暖かい友情を有難く受取りました。

北海道・北見の慰霊塔には戦死者と共に祭られています。私も引き揚げてから何回も戦死の申告をしました。国家は戦死とは受取っていません。富誠もまた国家で祭られるよりも皆様の暖かい友情の中で祭られる事の方がどんなにか嬉しいことだろうと思ひます。

土橋千代子 (上家富誠未亡人)

本年初めの渋柿会が同期生の戦死者名簿確認を兼ねて盛大に開催されました。

はせ参する者十九名、遠く室蘭より新保氏美唄より加藤氏小樽より酒井、高橋、島崎の諸氏更に東京より吉田氏を迎へ幹事竹島氏の軽妙な司会の下で進行。

緑丘を出てから二十九年の風雨に耐えたたくましい男達の自己紹介に文字通り渋柿の味をしみじみとかみしめ七次郎です。

大寒の中で牧野支部長は忽然と不帰の客となられた。昭和四十三年一月二十七日黎明のことである。享年六十五才、法名釈尊修昨秋マ先生を金沢にお迎えしてから程なく体調不備を訴えられ、金沢大学附属病院放射線科入院、老人性結核、肺炎を併発今春からあまり容態が良くないとおききしていたが、計報に接し本心に惜しい先輩を失くした悲しみに心から用意を表すのであります。

同氏は樽中から緑丘へそして卒業と同時に滝川中学で教鞭をとられ、昭和十七年来沢、金沢産業(航空機)日本硬質陶器、日硬陶業販売と奉

た。五月二十二日から東京・三越で昨年イランで指導した現地の作品と近作を展示すると聞く。緑丘人のご高覧をお願いしたい。(編集部)



〔表紙 絵〕

「梅」は京都奥嵯峨街道の清滝にほど近い鳥居本の古びた鮎茶屋の暗燈のもとで、近藤悠三先生に書いていただいた一枚である。先生は日本伝統工芸常任理事・陶芸部会長・監査員として厳しい陶芸の道にたゆまぬ精進と努力をされ、また京都市立美術大学学長として後進の教育に熱意を傾けておられる。去る三月、京都・高島屋で作陶展を開催、「水墨画風の大胆な筆の走りや力強さは六十九才の円熟した境地をしめす」と毎日新聞が先生の染付呉須をほめたたえ

緑丘石川支部長 牧野茂氏(大一二)逝去



北陸路の雪は、前夜から激しく、

大寒の中で牧野支部長は忽然と不帰の客となられた。昭和四十三年一月二十七日黎明のことである。享年六十五才、法名釈尊修昨秋マ先生を金沢にお迎えしてから程なく体調不備を訴えられ、金沢大学附属病院放射線科入院、老人性結核、肺炎を併発今春からあまり容態が良くないとおききしていたが、計報に接し本心に惜しい先輩を失くした悲しみに心から用意を表すのであります。

同氏は樽中から緑丘へそして卒業と同時に滝川中学で教鞭をとられ、昭和十七年来沢、金沢産業(航空機)日本硬質陶器、日硬陶業販売と奉

尚ご遺族は子息牧野勉氏(医師羽咋病院外科部長)故人夫人牧野かずえ氏

金沢市寺町二丁目七番一―三号です (亀井記)

兄(糸魚川先生)を思う

西野さんの愛情こもった追悼文は姉もさぞ喜んで拝読させて頂くことでしょう。また松商学園新聞の特別号にも転載させて頂くよう唯今速達便で送附しました。

兄に昨年十月、マッキンノン先生来名の折、歓迎会に出席する様連絡した節は大変元気があり、先約があったため出席出来ないことを残念がっていました。がその後一ヶ月余りで急逝するとは夢の様です。

松商学園も本年は創立七十周年を迎えるので兄も記念行事を、そしてまた松本市外に学園の移転計画の実施を見ずに逝ったその心情を察すと感無量です。姉も大阪に居を定め、長男次男も大阪に勤めていますので皆様方にまたお世話になることと存じますので何卒宜しくお願い申し上げます。

糸魚川伍郎(昭三)



大畑秀夫(昭一六後)

四十二年八月六日東大病院泌尿科で前立腺癌のため死去。

極東貿易株式会社 社長 大畑光子未亡人

丁目六番六四―二〇三

「主人は手塚先生の本(『手塚寿郎先生の追憶』)を待ちこがれていました。が間に合わなくて残念でした。いまは仏前に供えてあります。考えて見ますと一年前よりいろいろ体の調子がおかしかったのですが

貨物自動車 運輸事業

札幌自動車運輸株式会社

取締役会長 堂 城 不 二人(昭2)

取締役総務部長代 藤 田 三 雄(昭36)

本社 札幌市北7条西2丁目 電話代表72-2471

営業所 札幌・苗穂・琴似・豊平・小樽・函館・余市
江別・岩見沢・千歳・苫小牧・室蘭・旭川
帯広・釧路・根室・網走・北見・留萌・稚内

忙しいのと元気なのにまかせて無理をしたように思います。最後まで治る事を信じて去った本人の気持を思う時幸せだったようにも思い、また現代の医学をうらめしくも思っています。

四十二年八月六日、東大病院の泌尿科で前立腺癌のためかえらぬ人となりました。中学二年の女の子と小学校一年生の女の子を残されてただ悲しみに暮れているばかりでございます。

三月から東大病院の方へいろいろな検査に通いはじめて四月十二日入院、前立腺癌と診断されました。ガンの中でも前立腺は簡単で九〇%良

某月某日

神部 健之助 (天二)



(竹久夢二画)

○月〇日
神田神保町の昭森社社長から、電話で竹久夢二の全集刊行の計画だが、本郷のペリカン書房店主より、私が夢二の絵日記や書簡類を多数蒐蔵しているのを聞き、是非参考に致度いと事なのだ。私は即座に同社刊行の雑誌「本の手帖」竹久夢二特集号の年譜の不備や、第二番目の夫人彦乃が強引に父の手に奪い返され

くなると言われ、本人は勿論私たちがもかるとい気持でおりました所、五月十四日に聖丸摘出の手術をし、六月十日に第二回の手術をしましたところ膀胱はすっかり腐敗して、どう手の下しようもなかったそうです。

その時は本人には知らせませんでした。私が私達はほんとうにショックでした。病院は勿論、先生も日本一ですし、絶対に信頼していたものから死ぬなど考えられませんでした。

本人も「秋までには全快して家へ帰る。まだまだ死んでいられない。することが山ほどある」と口ぐせのように申していました。最初はすこ

く元気で食欲もあり病人らしくない病人と思っていました。七月に入り暑さと共に食欲減退、毎日のように微熱が続いて出血があり、輸血やら点滴やらで気分的に大ぶまいっていったようです。八月二日、急に様子が変わり出血多量で意識不明の状態が二時間位あったそうです。知らせを聞いて子供と共に病院に行きました。またまた平常に戻りましたがその夜からだんだん様子がおかしくなりとうとう六日の四時にあの世に旅立ってしまいました」との連絡を「手塚寿郎先生の追憶」受領の便りに添えて編集部へ寄せたものです。

和歌を説明したら、近く参上するから是非見せて呉れとの事だった。

北方領土復帰に関し、歴史資料上よりの私の見解を先日申送って置いた処、礼状に添えて、刊行物を沢山送って来た。また、幸徳秋水全集刊行の池袋の明治文庫からも、私の珍藏の秋水の手沢本三冊並に西川光二郎の原稿を写真に撮らせて呉れとの書状も来た。

明治百年を記念して、種々の計画が進んでいる。私が先輩から多く聞いて置いた事柄が、今は若い人に伝える存在となつたのだ。

来ル開城ノ事ナリ、夜ル会議期約書ナル感無量。掲げられていた説明書の説を係員に指摘したりした。常設陳列場に、私の乃木大将関係品を是非出品して呉れとの懇請だった。現物を一度見に来なさいと言つて別れた。

帰宅したら神奈川県立博物館の学芸部員横田君より電話にて、横浜関係のワーグマン、ピゴ、陶工真葛香山の件で御話承り度いと事だった。何れ資料や作品を揃えてから連絡すると返事して置いた。

○月〇日
乃木神社が明治百年を記念して乃木会館を建設、開館に当り「乃木大将を中心し明治を築いた人々の遺芳展」を開催、招待されたので赴き、明治三十八年一月一日旅順開城当日の乃木大将の日記を読む。

明治三十八年一月一日好晴、午前二時頃銃声熾なり払曉第九師団一部高地占領ノ報アリ銃ヲ望台ヲ攻撃第九師団十一師

○月〇日
先輩N氏を訪ねたら、私の永井荷風、島崎藤村、幸田露伴、泉鏡花等の文藝訪問記を書き度いし、紅葉の親友社の話も是非聞かせて呉れとの申出だった。約束。

俺も明治文学研究の先驅であったことを自覚する。昨今ではどうやら卒業生の方だ。老いたかな。

本日愛知県田原町の教育委員会より、私の渡辺華山関係資料数十点の見学希望

世界のどこへでも お好きなときに!



ご送金の際この振替用紙をご利用になれば振替手数料は無料で、送金事故はございません。

欄		件名	送附先住所氏名	「緑丘」誌代
記事	「緑丘」誌代			一、〇〇〇円
	小樽商大創立五〇周年記念号			二〇〇円
	小林多喜二 特集号			五〇〇円
	苦米地英俊先生 特集号			五〇〇円
	手塚寿郎先生 特集号			五〇〇円
				年卒

太平洋観光株式会社

本社 / 東京都千代田区丸の内2の18岸本ビル TEL(281) 9864~5
 銀座営業所 / 東京都中央区銀座5丁目2番地 TEL(573) 5416 代
 札幌営業所 / 札幌市北二条西三丁目(越山ビル) TEL(24) 7913

編集後記

小川又治(天二)

二月二十九日午後三時四十分、狭心症のため、東京、調布市の実弟宅で死去。六十四才。告別式は午後二時から東京都豊島区千早町三三七の自宅で営まれた。

同氏は中滝製薬工業株式会社社長

☆四十二年度もこの号をもって終り、次号から四十三年度に入る。予告の通り外人講師特集号が続き、長い間日の目を見ることの出来なかつた「伴房次郎先生(二代校長)の書簡と追憶」を何冊かに分けて特集したい。単行本で出す計画がゲニ・マッコト(NHKケンチとすみれでないが)「手塚寿郎先生の追憶」で苦杯をなめてこの計画に変更したことをご諒承願いたい。大正時代の卒業生は「手塚先生特集」が出来たら「大西猪之介先生特集」もやれという。ご期待に添えるものが出来れば幸いです。

☆四十三年度申込みを一月早く蓋を開けた。申込みを忘れて一号が無くなった頃に申込みがおる。同じことを何回もいうが四月中に発行部数を決定するので一号品切れについては責任をまたないことを再び申し上げます。

☆朝日新聞「声」欄(三月十九日)は少しでも多くの人を危険な地帯から助けたい一念の投書でした。多数緑丘人のお悔み、激励文に感謝します。

忙しいのと元気なのにまかせて無理をしたように思います。最後まで治る事を信じて去った本人の気持を思う時幸せだったようにも思い、また現代の医学をうらめしくも思っています。

四十二年八月六日、東大病院の泌尿科で前立腺癌のためかえらぬ人となりました。中学二年の女の子と小学校一年生の女の子を残されてただ悲しみに暮れているばかりでございます。

三月から東大病院の方へいろいろな検査に通いはじめて四月十二日入院、前立腺癌と診断されました。ガンの中でも前立腺は簡単で九〇名良

某月某日

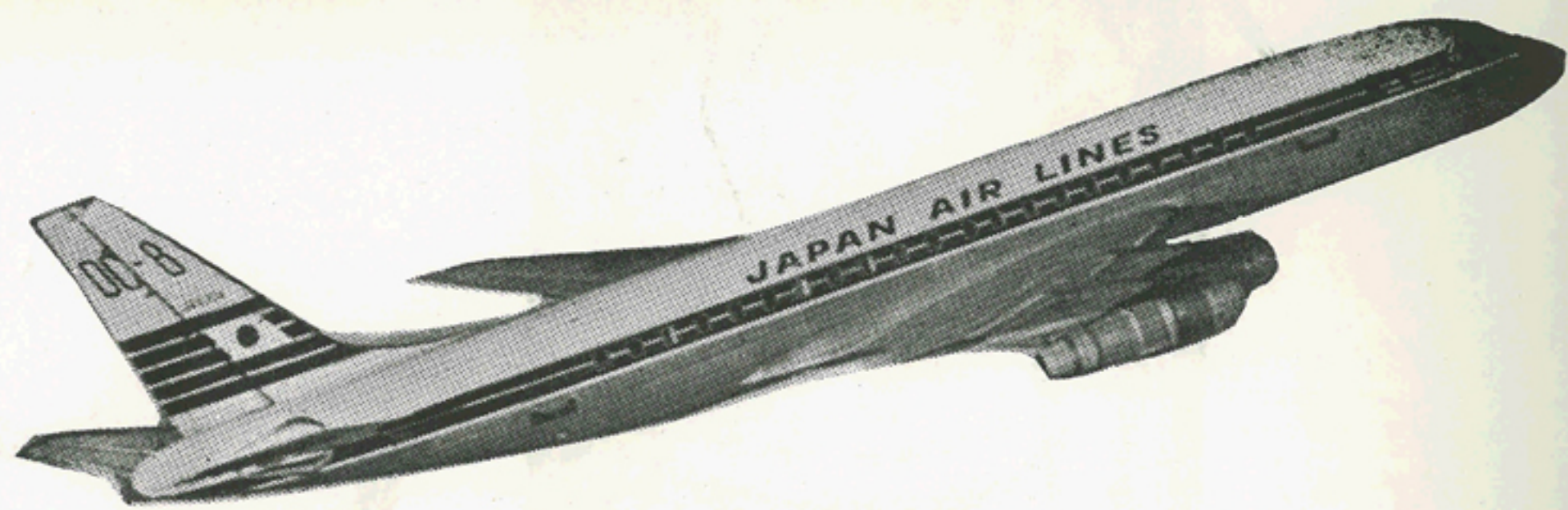
神部 健之助 (六一)



(竹久夢二画)

○月○日
神田神保町の昭森社社長から、電話で竹久夢二の全集刊行の計画だが、本郷のペリカン書房店主より、私が夢二の絵日記や書簡類を多数蒐集しているのを聞き、是非参考に致度いと事なのだ。私は即座に同社刊行の雑誌「本の手帖」竹久夢二特集号の年譜の不備や、第二番目の夫人彦乃が強引に父の手に奪い返され

世界のどこへでも お好きなときに!



'68 バイキング ツアー

ヨーロッパの旅	22日間	旅費：¥598,000
出発日	5月8日・5月22日・6月12日・7月17日・ (水曜日) 7月24日・8月7日・9月11日	
(旅行コース)	東京・コペンハーゲン・ストックホルム・ロンドン・ ブリッセル・パリ・マドリッド・ジュネーブ・ローマ・ ミュンヘン・ウィーン・アテネ・東京	

関西地方の方は緑丘編集部 (大阪202局2161) へ御相談下さい

IATA (国際航空運送協会) 公認代理店

世界中の航空会社の代理店です。日航, 全日空, 国内航空はもちろんです

- JATA (国際旅行業者協会) 会員
- ASTA (米国旅行業者協会) 会員
- PATA (太平洋観光協会) 会員
- UFTAA (国際旅行業者連盟)

太平洋観光株式会社

本社 / 東京都千代田区丸の内2の18岸本ビル TEL(281) 9864~5
銀座営業所 / 東京都中央区銀座5丁目2番地 TEL(573) 5416 代
札幌営業所 / 札幌市北二条西三丁目(越山ビル) TEL(24) 7913

くなると言われ、本人は勿論...



払込票		払込通知票	
口座番号	大阪	口座番号	大阪
加入者名	「緑丘」編集部	加入者名	「緑丘」編集部
金額	17752	金額	17752
住所氏名		住所氏名	
局番		局番	
料金	特殊	料金	特殊
備考		備考	

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証明して下さい。各票の記載事項に間違いのないことをお確かめ下さい。

文字は正確に明瞭に、数字はアラビア数字を使って書き下さい。



払込通知票		払込票	
口座番号	大阪	口座番号	大阪
加入者名	「緑丘」編集部	加入者名	「緑丘」編集部
金額	17752	金額	17752
住所氏名		住所氏名	
局番		局番	
料金	特殊	料金	特殊
備考		備考	

(郵政省)

(郵政省)

小川又治 (大一一)

月二十九日午後三時四十分、狭... のため、東京、調布市の実弟宅... 去。六十四才。告別式は午後二... から東京都豊島区千早町三十七... で営まれた。
は中滝製薬工業KK前社長

編集後記

十二年度もこの号をもって終... 次号から四十三年度に入る。予... 通り外人講師特集号が続き、長... 日の目を見ることの出来なかつ... 伴房次郎先生(二代校長)の書... 追憶"を何冊かに分けて特集し... 単行本で出す計画がゲニ・マ... (NHK)ケンチとすみれでな... "手塚寿郎先生の追憶"で苦... 悩めてこの計画に変更したこと... 承願したい。大正時代の卒業... 手塚先生特集"が出来たら... 猪之介先生特集"もやれとい... 期待に添えるものが出来れば... ある。
三年度申込みを一月早く蓋を... へ。申込みを忘れて一号が無く... 頃に申込み人がおる。同じこ... 回もいうが四月中に発行部数... するので一号品切れについて... をもたないことを再び申し上げ... 。

新聞「声」欄(三月十九日)
でも多くの人を危険な地帯か... たい一念の投書でした。多数... のお悔み、激励文に感謝しま